

教 育 委 員 会 自己点検・評価報告書

平成25年9月



浜田市教育委員会

自己点検・評価に当たって

教育委員会は、「政治的中立性の確保」、「継続性・安定性の確保」、「地域住民の意向の反映」を基盤とする、首長から独立した合議制の執行機関であり、教育行政における重要事項や基本方針を決定します。また、教育委員会の委任を受けた教育長や事務局が、学校教育や社会教育、スポーツ、文化財など、具体的な教育行政事務を執行します。

現在、教育行政を巡っては、中央教育審議会において、今後の地方教育行政の在り方について議論がなされるなど、様々な問題提起がなされている中であって、実際に執行された具体的な教育行政事務が、教育委員会が決定した基本方針に沿っているのか、それが時代の要請に応えた教育行政となっているのか、教育委員会自らが、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価します。

なお、この点検及び評価に関することは、教育行政の基本方針に関することなどとともに、教育長に委任できず、教育委員会自らが管理・執行する事務として位置づけられており（地教行法第26条第2項）、その結果を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています（地教行法第27条）。

浜田市教育委員会の自己点検・評価は、平成22年度に策定した浜田市教育振興計画「はまだっ子プラン」（平成23年度～平成27年度）の施策体系に基づいて点検・評価を行っています。施策体系にある主な事業を抽出し、それぞれの事業について事業終了後、事務局から報告を受け、点検・評価を行いました。

今般、その結果を、「教育委員会自己点検・評価結果報告書」のとおり取りまとめたので、地教行法第27条の規定により報告します。

平成25年9月

浜田市教育委員会

《 目 次 》

ページ

1. 浜田市教育振興計画事業進捗状況 教育委員会自己点検・評価項目一覧

I 生きる力を育む学校教育の充実

(1) 自然に感動する心・ふるさとを愛する心を育てる教育の推進

○ ふれあい体験・ボランティア体験教育の充実

1 自然体験学習 (学校教育課) …… 1

○ 未就学児教育の充実

2 公立幼稚園の集約化 (教育総務課) …… 2

○ 人と関わる力の育成

3 赤ちゃん登校日 (学校教育課) …… 3

4 ふるまい向上プロジェクト (学校教育課) …… 4

(2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進

○ 「わかる授業」の実施

5 小中一貫教育推進事業 (学校教育課) …… 5

6 ICT教育の推進 (学校教育課) …… 6

7 学校支援員の充実 (学校教育課) …… 7

8 学力調査の分析 (学校教育課) …… 8

9 授業研究の推進 (学校教育課) …… 9

10 学校事務の共同実施 (学校教育課) …… 10

○ 読書の推進

11 学校図書館の充実と読書習慣の定着 (学校教育課) …… 11

○ 学習意欲の醸成

12 キャリア教育 (学校教育課) …… 12

(3) 一人一人を大切にする教育の推進

○ 人権感覚を身に付けた児童生徒の育成

13 学校における人権意識高揚事業 (人権同和教育室) …… 13

○ 個々に応じたきめ細やかな教育の実施

14 特別支援教育推進事業 (学校教育課) …… 14

○ 指導相談機能の充実

15 相談支援体制の充実 (学校教育課) …… 15

○ 学校間交流の促進		
16 小規模校等学校間交流事業	(学校教育課)	16
(4) 健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進		
○ 食育の推進		
17 食育推進事業	(教育総務課)	17
○ 体力づくりの充実		
○ 家庭における生活習慣の確立に向けた指導		
(5) 安全で安心な教育環境の整備		
○ 子ども見守り活動等の充実		
18 はまだ子ども安全センター事業	(学校教育課)	18
○ 子どもの就学支援		
19 要保護・準要保護児童生徒扶助	(学校教育課)	19
○ 学校施設の整備		
20 学校統合計画の推進	(教育総務課)	20
21 統合小学校建設事業	(教育総務課)	21
22 学校の耐震化の推進	(教育総務課)	22
23 学校給食施設の統合	(教育総務課)	23
II 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成		
(1) 子どもたちを健やかに育むための家庭教育の充実と地域との連携		
○ 家庭の果たす役割の再認識		
24 通学合宿	(生涯学習課)	24
○ P T A活動との連携強化		
25 浜田市P T A連合会連携事業	(青少年サポートセンター)	25
○ 地域との連携による子どもの育成		
26 ふるさと教育推進事業	(生涯学習課)	26
27 子どもの居場所づくりの推進	(生涯学習課)	27
28 青少年自立支援事業	(青少年サポートセンター)	28

(2) 生涯の各期に対応した学習機会の提供		
○ 公民館活動の充実		
29 公民館活動推進事業	(生涯学習課)	29
○ 国際理解に向けた交流の推進		
30 生徒国際交流事業	(生涯学習課)	30
○ 人権教育の推進		
31 人権尊重のまちづくりの推進	(人権同和教育室)	31
(3) 生涯学習環境の整備と機能の充実		
○ 図書館機能の充実		
32 中央図書館の建設	(生涯学習課図書館準備室)	32
33 三隅図書館の建設	(生涯学習課・三隅分室)	33
34 子ども読書活動推進計画の策定	(生涯学習課)	34
35 読書活動・移動図書館	(生涯学習課)	35
○ 学校施設の開放		
36 学校開放事業	(生涯学習課)	36
(4) 学んだことを活かす地域活動の推進		
○ 地域の教育力向上		
37 学校支援地域本部事業の推進	(生涯学習課)	37
Ⅲ 生涯を通じて活動できるスポーツの振興		
(1) 心身の健康を養うスポーツ・レクリエーション活動の推進		
38 スポーツ推進委員	(生涯学習課)	38
(2) スポーツ精神のかん養と競技力向上の推進		
39 トップアスリートを招いた教室の開催	(生涯学習課)	39
40 スポーツ関係団体への支援	(生涯学習課)	40
(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備		
41 運動施設の補修計画	(生涯学習課)	41
42 総合型地域スポーツクラブの設置	(生涯学習課)	42

IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造

(1) ふるさとの文化を育む基盤づくり

○ 伝統文化の保存・継承

43 伝統芸能、伝統文化の継承 (文化振興課) …… 43

○ 芸術・文化活動の活性化

44 芸術・文化活動の活性化 (文化振興課) …… 44

(2) 文化創造のための環境づくり

○ 芸術の鑑賞機会や発表の場の提供

45 世界こども美術館創作室の活用 (文化振興課) …… 45

46 優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供 (文化振興課) …… 46

(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積

○ 文化財の調査研究

47 文化財の調査研究 (文化振興課) …… 47

○ 埋蔵文化財の分布及び発掘調査

48 市内遺跡発掘調査事業 (文化振興課) …… 48

○ 文化財の保護活用

49 文化財の保護活用 (文化振興課) …… 49

○ 資料館等の活用

50 子どもを対象とした資料館等の活用 (文化振興課) …… 50

○ 御便殿の保存活用

51 浜田城の啓発 (文化振興課) …… 51

○ 浜田市誌編纂

52 市誌編纂事業 (文化振興課) …… 52

2. 浜田市教育振興計画「はまだっ子プラン」の目標達成度について …… 53

(資料)

浜田市教育振興計画「はまだっ子プラン」(概要版)

1. 浜田市教育振興計画事業進捗状況
教育委員会自己点検・評価項目一覧

教育委員会自己点検・評価表

No. 1

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(1) 自然に感動する心・ふるさとを愛する心を育てる教育の推進
おける項目	小項目	ふれあい体験・ボランティア体験教育の充実
事務・事業名		自然体験学習
内	容	地域の豊かな自然に触れ合う体験を通して、自然に感動する心、ふるさとを愛する心の育成を図る。
担当課		学校教育課
24年度の目標		子どもたちが、地元の地域資源に親しみながら、日常では経験できない宿泊を含む体験活動、集団活動を行うことで、人間関係の作り方、公衆道徳、規範意識などを身につけるとともに、感動する心、コミュニケーション力、社会性、思いやりの心などの生きる力を育む一助となるように、夏休み中に2泊3日の宿泊体験活動を計画実施する。 あわせて、将来、学校の教育課程に位置づけ易い宿泊体験プログラム、社会施設見学プログラムの開発を目指して取り組む。
24年度の実績		浜田地区広域行政組合、江津市教育委員会、浜田市ツーリズム協議会と連携し、浜田・江津市内の小学5・6年生を対象とした「～社会科の勉強にもなる～夏休み！ふるさと体験・友だちづくり活動」を実施。 実施期間 8月8日～8月10日（2泊3日） 実施場所 弥栄町、金城町波佐、江津市桜江町 主な内容 アイガモ農法見学、米粉パンづくり、機織体験、沢登り、桑畑作業体験、桑茶生産工場見学、係留気球乗船体験、農家民泊、農作業体験 参加人数 小学5・6年生 36名（12校） 教員9名（4校）
教育委員会の評価		子どもたちが、地元の地域資源に触れながら様々な体験をして生きる力を養うことはとても重要である。 学校では宿泊体験活動を実施する日程の確保や経費面での課題はあるが、ツーリズム協議会が相談窓口となったモデル的な体験プログラムを開発し、そのノウハウを蓄積することは、学校が宿泊体験活動に取り組む際の負担を軽減するという意味でも意義がある取組と考える。

教育委員会自己点検・評価表

No. 2

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	I 生きる力を育む学校教育の充実 (1) 自然に感動する心・ふるさとを愛する心を育てる教育の推進 未就学児教育の充実
事務・事業名		公立幼稚園の集約化
内 容	浜田市における公教育の連続性、幼児教育支援を維持しつつも、少子化等に伴う幼稚園児数の減少に対応するため、行政の効率化の観点から、現在の4園全て継続するのではなく、地域性や施設、職員体制等を勘案し、公立幼稚園1園を閉園し、3園に集約する。	
担 当 課	教育総務課	
24年度の目標	平成22年2月に、「公立幼稚園は存続するが、園児の減少や運営の効率化に鑑み、1園を閉園する。」との方針を決定し、統合する園について、幼稚園の配置状況、施設の状況、園庭等の保育環境や職員の配置状況等を総合的に検討した結果、平成25年度末で原井幼稚園と石見幼稚園を統合する方針を決定した。 平成24年度は、統合に向け、保護者等の関係者の合意を得るため、説明会等を行っていく。	
24年度の実績	平成24年3月に引き続いて11月にも原井幼稚園の保護者による原井幼稚園の存続を求める署名簿の提出があり、保護者等の理解が充分得られていない状況にあるため、理解を得る努力が必要であった。 平成24年8月、国会において子ども・子育て関連3法が成立し、幼児期の学校教育（幼稚園）・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する方針が示され、今後の幼児期の教育・保育のあり方について全庁的に検討するとともに、幼稚園児が年々減少する中で、市立幼稚園のあり方や保護者から強い要望のあった統合幼稚園の建設も含め、再検討することとなり、平成26年4月に予定していた原井幼稚園と石見幼稚園の統合は、当面の間延期することとした。	
教育委員会の評価	公教育の連続性、幼児教育支援を維持しつつも、少子化等に伴う幼稚園児数の減少に対応するため、行政の効率化を踏まえて公立幼稚園を3園とする方針としているが、平成24年8月の子ども・子育て関連3法の成立により、統合幼稚園の建設も含め、再検討をすることとなった。 今後、子ども・子育て関連3法の動向等を踏まえつつ、市における幼児期の教育・保育のあり方の検討の中で、公立幼稚園のあり方を十分に検討する必要がある。	

教育委員会自己点検・評価表

No. 3

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(1) 自然に感動する心・ふるさとを愛する心を育てる教育の推進
おける項目	小項目	人と関わる力の育成
事務・事業名		赤ちゃん登校日
内	容	生後4か月程度の赤ちゃんと保護者を学校に招き、児童との関わり体験を持つことで、児童に基本的なマナー、コミュニケーション力、共感力、思いやりの心、クラスの仲間との信頼関係、いのちの尊さや親への感謝、役立ち感などを育む一助とする。
担当課		学校教育課
24年度の目標		市内の小学校2校で赤ちゃん登校日授業を実施する。また、赤ちゃん登校日授業以外にも、児童生徒、保護者、地域の人たちに対するコミュニケーション講座を実施する。
24年度の実績		鳥取大学医学部准教授の高塚人志先生を講師に迎え、下記の事業を実施した。 【赤ちゃん登校日授業】 ・美川小学校5年生（1学期）と今市小学校5年生（2学期）で実施。 【ヒューマン・コミュニケーション講座】 ・7月に美川小学校6年生、第四中学校保護者を対象にそれぞれ実施。 ・9月に今市小学校の教職員と保護者を対象に実施。 ・10月に旭中学校の全生徒を対象に実施。
教育委員会の評価		人との関わり方について、赤ちゃん登校日授業やコミュニケーション講座で学んだが、アンケート結果から、児童生徒だけでなく子育て中の親や参観者にとっても大いに参考となる内容だったとの高評価をいただいた。 いじめ・不登校・問題行動など、児童生徒や学校が抱える諸問題の解決には子どもたちの心の育成が最重要課題であり、今後も、人間関係力を育むこの事業を継続していきたい。

教育委員会自己点検・評価表

No. 4

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(1) 自然に感動する心・ふるさとを愛する心を育てる教育の推進
おける項目	小項目	人と関わる力の育成
事務・事業名		ふるまい向上プロジェクト
内	容	すべての大人と子どもが一緒になって、ふるまい（礼儀、作法、あいさつ、しぐさ、モラル、ルール、しつけ、道徳、倫理観、生活行動、生活動作、思いやりの総称）の向上を目的にした取組を、学校、家庭、地域が連携しながら推進する。
担当課		学校教育課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・各学校でできるふるまいについては、様々な場面において実践していく。 ・各家庭での生活習慣が基本であるため、保護者の方への理解と協力を求めている。 ・地域での役割もたいへん重要であるため、公民館を中心にふるまい行動の実践を広めていく。
24年度の実績		<p>ふるまい向上を意識した事業として、子どもたちの礼儀や思いやりの心などを育む「赤ちゃん登校日授業及びコミュニケーション講座」や「宿泊体験活動」を実施した。</p> <p>また、こどもの保護者に対しては親学を推進した。</p> <p>旭中学校区においては、認定こども園・小中学校・PTA・公民館・教育委員会の連携により道徳教育総合支援事業に取り組み、特に学校や園では道徳の視点を意識した教育活動を実践した。</p>
教育委員会の評価		<p>地域コミュニティを維持していくためには、子どもも大人も人と上手に関わる力を身につけていく必要があり、そのことがふるまい向上にもつながっていく。</p> <p>ふるまい向上のためのひとつのアプローチとして、赤ちゃん登校日授業、宿泊体験活動、親学、道徳教育総合支援事業に取り組んでいるが、ふるまい向上を意識したこうした活動を、今後は、さらに全学的な活動へと広めていく必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 5

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	I 生きる力を育む学校教育の充実 (2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進 「わかる授業」の実施
事務・事業名		小中一貫教育推進事業
内容		浜田市小中一貫教育基本方針に基づき、小中一貫教育推進委員会で方向性を定め、9つの中学校ブロックで、それぞれの実態に合わせた小中一貫教育を推進する。
担当課		学校教育課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校区(9中学校区)をブロックとして、地域や学校の実態に応じた小中一貫教育を推進する。 ・小中一貫教育の推進委員会、ブロック代表者会において今年度の方針を決めて各ブロックの特色を出しつつ、全体としても統一性のある取組となるようにする。 ・各ブロック内における特色ある取組をリーフレットの配布や教育委員会のホームページで紹介をする。 ・各ブロックの取組の様子を保護者や地域に公開をする。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年に作成した「浜田市小中一貫教育基本方針」に基づき、9つの中学校ブロックで、それぞれの実態に合わせた小中一貫教育を推進した。 ・各ブロックの取組を実践記録集としてまとめた。 ・特色ある取組をリーフレットにまとめ、全保護者に配布するとともに教育委員会のホームページにもアップした。また、ブロックの取組について、リーフレットにまとめて配布を行った。(4校区) ・金城中学校校区において、全体研修会の様子を保護者・地域・教育委員の方に公開をした。
教育委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・金城中学校区の全体研修を見て、取組が点から線、線から面へと広がっている様子が分かった。今後、他の校区でも取組の様子を公開し、広がり様子を保護者や地域にも知らせることが必要である。 ・特色ある取組のリーフレットにより、各ブロックの取組の様子が分かった。今後も継続したい。

教育委員会自己点検・評価表

No. 6

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	I 生きる力を育む学校教育の充実 (2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進 「わかる授業」の実施
事務・事業名		ICT教育の推進
内容		インターネットや情報機器を有効に活用し、学力向上のため分かりやすい授業の実践に取り組むとともに、情報モラル教育を推進する。
担当課		学校教育課
24年度の目標		老朽化した教育用パソコンの更新に合わせ、授業に役立つICT環境を研究し整備する。また、電子黒板の活用状況を調査し、授業効果の検証を行う。
24年度の実績		パソコン教室の情報機器を3校更新した。(二中、三中、弥栄中) また、テレビ電話が簡単に実現できるSKYPEやタブレット端末を試験的に導入した。 電子黒板の利用状況調査を行った。小学校では外国語活動(100%)や社会(56%)で、中学校では英語(100%)で電子黒板の利用頻度が高くなっている。
教育委員会の評価		ICT教育はパソコン教室内だけで行うものでなく、普通教室で簡単にインターネットを活用した授業ができたり、電子黒板や実物投影機が活用できたりする環境を整備し、それらを使いこなせる教員を育成することが必要である。 大きな財政負担を伴うことではあるが、これからの社会ではICT機器を使いこなす能力がますます必要になってくるので、計画的にICT教育を推進していく必要がある。 また、子どもたちがネットトラブルに巻き込まれないよう、情報モラル教育の充実も大きな課題である。

教育委員会自己点検・評価表

No. 7

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
	中項目	(2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進
	小項目	「わかる授業」の実施
事務・事業名		学校支援員の充実
内 容		社会人や大学生の支援員を学校に配置することで、特別な支援を要する児童生徒に対して学校生活や学習面での個別支援を行う。
担 当 課		学校教育課
24 年 度 の 目 標		特別な支援を必要とする子どもたちは増加傾向にあり、教職員の負担がますます大きくなっていることから、学校現場へ人的支援を強化する。
24 年 度 の 実 績		主に通常学級に在籍する特別な配慮を要する子どもの支援のため、昨年度に比べ学校支援員の配置を倍増した。 また、放課後の児童生徒の学習支援のため、県立大学生を市内の小中学校に派遣した。(一中、二中、三中、浜田東中、金城中の5中学校及び松原小学校)
教育委員会の評価		学校支援員の配置を強化したことが教職員の安心につながり、個々の児童生徒に優しい教育の実践につながっている。 また、県立大学生学習支援事業は、生徒が年齢の近い大学生から刺激を受けて学習の仕方を学ぶよい機会であり、大学生にとっても、中学生に個別指導を行う有意義な経験ができることから、双方に有益な事業として継続していく必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 8

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進
おける項目	小項目	「わかる授業」の実施
事務・事業名		学力調査の分析
内	容	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県学力調査の結果について、教育委員会と各校で分析を行い、課題や対応策を明確にして学校全体で学力向上の取組を進める。また、市内全体の取組として良い事例を全学校が共有する。
担当課		学校教育課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・市、各学校で学力調査結果を分析し対応策の報告をする。また、学校と市教育委員会とで学力向上に向けた懇談会を開催し、課題と対策の共通理解を図る。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・県学力調査結果の市教委による分析結果を9月の校長会で知らせた。 ・各学校における県学力調査結果についての分析・対策の報告を受け、9月下旬に中学校ブロックごとに校長と教育委員、教育委員会事務局で校長懇談会を開催し、課題、問題点等について意見交換し、今後の対応等の協議を行った。 ・また、市の分析、対策について議会報告を行った。
教育委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に知・徳・体のバランスのとれた“生きる力”を育成していくために、その一つである学力について、学校現場と教育委員会が協議することは大切である。 ・中学校校区ごとに小学校と中学校が学力調査の結果や対策について共通理解を図りながら連携することは、小中一貫教育で学力向上をめざすという視点で意義があると考えます。

教育委員会自己点検・評価表

No. 9

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進
おける項目	小項目	「わかる授業」の実施
事務・事業名		授業研究の推進
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の新しい教科書の内容に関する研修会を実施する。 ・全ての小学校と中学校への学校訪問指導を行う。
担当課		学校教育課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・市指導主事による算数・数学、道徳、小学校外国語活動について学校訪問を行い、教員の指導力の向上を図る。 ・中学校デジタル教科書の活用について指導を行い、英語科教員の指導力の向上を図る。 ・教科書会社の方を招き、直接教科書作成の意図を聞く研修会を実施し、新中学校学習指導要領のねらいに即した新教科書の内容や扱い方についての理解を深め指導に生かす。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての小学校に算数、道徳、小学校外国語活動のいずれかで年間3回の学校訪問指導を行い、授業における指導力の向上を図った。 ・中学校デジタル教科書の活用について、全ての中学校を訪問し、活用状況の把握と活用について指導を行った。 ・この他、数学科で3校の中学校の訪問指導を行った。 ・7社の教科書会社の担当者を招き、研修会を行った。
教育委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領のねらい達成のために授業改善が求められている。児童生徒が学習の主体者であることを認識した授業を実施することが必要である。学校訪問を通じて新学習指導要領の趣旨を踏まえ、今後も授業改善を図っていく必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 10

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
	中項目	(2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進
	小項目	「わかる授業」の実施
事務・事業名		学校事務の共同実施
内容		<p>次の視点から学校事務共同実施に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多忙化する教職員の事務負担の軽減を図る。 ・複雑化、大量化する学校事務の適正化及び効率化を図る。 ・学校間の事務処理ノウハウを共有し、校内の事務処理システムを改善する。 ・事務職員同士のコミュニケーションを醸成する。
担当課		学校教育課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・「教育力向上のための浜田市立小中学校事務共同実施要綱」に基づき、7つのグループに分けて共同実施を実施する。 ・松原小学校の「学校事務共同実施拠点室」において、月2回の共同実施日を設定する。 ・緊急雇用対策事業を活用して、学校の備品台帳の整理などを行い、学校の負担感を軽減する。 ・全教職員に対して実施した共同実施に関するアンケート調査結果をもとに、実現できる取組から実践していく。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・松原小学校の「学校事務共同実施拠点室」において、毎月定例の学校事務共同実施グループリーダー会及び共同実施を行った。 ・事務処理の効率化に向け、年間計画に基づいた共同実施を開催することにより、学校間の事務の平準化及び効率化を図り、併せて事務職員未配置校への支援も行うことができた。 ・各グループの実践発表を行い、教育委員会をはじめ、学校長の代表や教育事務所職員にも参加して活動内容を聴講した。 ・各グループの実践の成果を市内全体に波及するために、平成25年度に事務加配を要求していくことを確認した。
教育委員会の評価		<p>教職員の多忙感を軽減し、子どもと向き合う時間を作り出していくために、共同実施に引き続き取り組む必要がある。</p> <p>浜田市の取組は県内では先進的と考えるが、事務職員を中心とした取組から全教職員が効果を実感できる取組へとさらに進展させる必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 11

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	I 生きる力を育む学校教育の充実 (2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進 読書の推進
事務・事業名		学校図書館の充実と読書習慣の定着
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の充実…学校図書費の増額、蔵書の整備、施設整備を行う。 ・学校司書、学校図書館ボランティア等を配置する。 ・読書習慣の定着…読み聞かせ、朝読書等を行い、読書習慣の定着を図る。
担当課		学校教育課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書費の増額を行う。 ・貸出冊数の増加を目指す。 ・学校図書館支援センターの設置及び学校司書、学校図書館ボランティア等を配置する。 ・読み聞かせ、朝読書等を行い、読書習慣の定着を図る。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書費は、前年度は光をそそぐ交付金事業を活用して重点整備したので前年比68%に留まったが、平成23年度比では10%増額した。 ・学校図書館支援センターは、専任職員の配置ができず、学校教育課員の兼務となった。 ・学校司書、学校図書ボランティアは前年度に引き続き全小中学校に配置した。これにより、図書の貸出冊数は小学生1人当たり55.1冊（前年比11%増）中学生1人当たり14.4冊（前年比9%増）となった。 ・学校では、ボランティア等の協力を得ながら読み聞かせ、朝読書等を行い、読書習慣の定着を図った。
教育委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の増冊に加えて、「学校図書館支援センターの設置」等により、学校図書館の環境が充実し、図書貸出冊数の増加につながっているため、引き続きをこれらの事業を推進する必要がある。 ・学校図書館ボランティアの配置に留まっている学校からは配置時間拡充の要望があり、今後の課題である。

教育委員会自己点検・評価表

No. 12

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子 プ ラ ン に お け る 項 目	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
	中項目	(2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進
	小項目	学習意欲の醸成
事 務 ・ 事 業 名		キャリア教育
内 容		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の必要性について教職員への啓発を図る。 ・中学校の職場体験活動を広く市民に知らせるための啓発活動を行う。 ・児童生徒が将来に対する夢や希望をもち、学習意欲が高まるようキャリア教育に視点をあてた授業を行う。
担 当 課		学校教育課
24 年 度 の 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の必要性を教職員に啓発するための講演会を行ったり、研修会へ参加したりする。 ・幟旗やステッカーを作成し、中学生の意欲喚起と市民への周知を図る。 ・キャリア教育に視点をあてた授業を行う。
24 年 度 の 実 績		<ul style="list-style-type: none"> ・東京大学の玄田有史教授を招き、教職員対象の講演会を行った。(参加者約90名) ・二中校区及び浜田東中校区を中心に延べ8名の教員が先進学校の研究会へ参加し、校内で報告を行った。 ・研修に出かけた教員によって、キャリア教育に視点をあてた授業を実施し、市内の先生方にも公開を行った。 ・幟旗(120本)、ステッカー(300枚)を作成し、職場体験活動を受け入れていただいた事業所に掲げたことは、市民へのアピールと受け入れていただいた事業所のアピールとなった。
教育委員会の評価		<p>児童生徒に将来に対する夢や希望をもたせることは、学習意欲向上そして、学力向上にもつながる。キャリア教育はすべての学習の基礎となる大切な教育であり、今後は、小学校から中学校のそれぞれの発達段階に応じた取組についても研究していく必要がある。</p> <p>今後、職場体験活動については、実施の目的を明らかにしたり、事前・事後の指導を充実する必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 13

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(3) 一人一人を大切にす教育の推進
おける項目	小項目	人権感覚を身に付けた児童生徒の育成
事務・事業名		学校における人権意識高揚事業
内容		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみで育てる人権意識講座（主として中学校区を対象に実施している。） ・人権教育総合推進地域事業（文部科学省の指定事業で、二中・三中校区の学校や公民館等を対象としている。平成23年度・24年度の2か年の事業である。）
担当課		人権同和教育室
24年度の目標		<p>学校における人権・同和教育の取組を、地域にも声をかけて、地域ぐるみで実施する。講演会等を通して学校教職員、児童生徒、保護者、関係機関、地域住民が共に学び、家庭や職場での会話に結びつけ、人権感覚を育てることの大切さや、いじめ・偏見・差別をなくしていくことについて共通認識を持つ。それにより、地域全体の人権感覚あふれる豊かな人間関係を形成することを目指す。人権教育総合推進地域事業においても同様な取組を目指す。</p>
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみで育てる人権意識講座 13回 〔内訳〕 中学校8回、 小学校3回（一中校区3校合同、浜田東中校区3校合同、旭中校区4校合同）、 高校1回、特別支援学校1回 ・人権教育総合推進地域事業 ◎講演会 14回 〔内訳〕 中学校5回、小学校7回（うち2回は二中校区3校合同、三中校区2校合同）、公民館2回 ◎参考図書等の配付 ◎人権教育総合推進会議 1回
教育委員会の評価		<p>地域ぐるみの取組が、人権意識を高める要因となり、地域に根付いた活動となっている。</p> <p>また、人権教育総合推進地域事業においては、2年間の締めくくりとして、3月に開催した人権教育総合推進会議では、委員から、講演会の開催も効果的であるが、日々の生活の中から学ぶことも大切である、などの課題も提示された。この事業が終了した平成25年度以降も引き続き研修を充実させる必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 14

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(3) 一人一人を大切にす教育の推進
おける項目	小項目	個々に応じたきめ細やかな教育の実施
事務・事業名		特別支援教育推進事業
内 容	<p>通常の学級に在籍するLD・ADHD・高機能自閉症等の児童生徒をはじめとして、様々な障がいのある児童生徒へ、特別支援連携協議会や相談支援チーム、医療・福祉などの関係機関と連携し一体的な相談・支援を行う。</p>	
担 当 課	学校教育課	
24年度の目標	<p>保育園（所）、幼稚園を巡回訪問し、発達障がいの早期発見に努める。 障がいのある子どもや保護者の相談に応じ、適切な関係機関と連携して支援を行う。 障害のある幼児児童生徒一人ひとりの障害の種類と程度の調査を行い、教育的ニーズに応じた適切な就学について保護者と当該児童生徒の在学校長に助言を行う。</p>	
24年度の実績	<p>障がいのある児童生徒の早期発見・相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相談支援チーム <ul style="list-style-type: none"> ・訪問所（園）数：保育所(園)27、託児所1、公立幼稚園4、私立幼稚園2、児童養護施設1、託児所1 中学校2 ・訪問対象数：329件 ○浜田市特別支援連携協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・会議開催数：1回 <p>障がいのある児童生徒の就学指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就学審議会 <ul style="list-style-type: none"> ・審議回数8回 ・審議件数：50件 	
教育委員会の評価	<p>障がいのある児童生徒の早期発見については、浜田市内の小中学校はもとより子育て支援課と連携による全保育所（園）、幼稚園訪問により気になる幼稚園児・児童生徒の掌握ができた。 相談・支援については、浜田養護学校や浜田ろう学校の協力を得つつ保護者からの相談に応じたことにより適切な就学や療育に繋がったと考える。 障がいのある児童生徒の就学指導については、就学審議答申を基に適切な就学指導ができた。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 15

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子 プ ラ ン に お け る 項 目	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
	中項目	(3) 一人一人を大切にす教育の推進
	小項目	個々に応じたきめ細やかな教育の実施
事 務 ・ 事 業 名		指導相談機能の充実
内 容	<p>教育支援センター山びこ学級の周知・活用や、専任指導員による家庭訪問による不登校及び不登校傾向児童生徒への支援の充実を行う。 また、指導主事との連携も行い、いじめ・問題行動や虐待等の個別の案件解決を図る。</p>	
担 当 課	学校教育課	
24 年 度 の 目 標	<p>心理的、情緒的、身体的、社会的な障がいや、不適應により就学に困難を生じたり拒否傾向を示す児童・生徒に指導の手を差し伸べ、自立する態度を養い、平常な生活への復帰を目ざすために、保護者、学校現場並びに関係諸機関との連携を密にして、児童・生徒の自立への援助を図る。 また、現今の小・中学校の抱える生徒指導上の諸問題に関わる相談機能の充実を図る。</p>	
24 年 度 の 実 績	<p>○山びこ学級通級者の状況 ・小学生 通級者数延べ318人（実数 5名）、復帰者数2名 ・中学校 通級者数延べ834人（実数14名）、復帰者数2名 ○心のかけ橋支援事業 ・参加児童生徒数延べ247人（実数25人） ・家庭訪問児童生徒数延べ9人（実数3人） ○スクールソーシャルワーカー活用事業 ・訪問452時間（不登校29件、家庭環境の問題10件、その他10件） ○スクールカウンセラー活用事業 ・児童生徒相談件数延べ403件 ・教職員相談件数延べ94件 ・保護者相談件数延べ76件</p>	
教育委員会の評価	<p>不登校又は不登校傾向の児童生徒の支援については、スクールカウンセラー（児童生徒のカウンセリング及び保護者、教職員の支援）、スクールソーシャルワーカー（教育・社会福祉等の関係機関との連携による養育環境の改善）などにより不登校の未然防止、復帰に大きな成果があった。 そして、心のかけ橋事業による児童生徒、保護者の支援、山びこ学級による不登校児童生徒の心の居場所の提供と学習支援が不登校児童生徒の復帰に成果を上げている。 いじめ・問題行動への対応については、さらに指導体制を充実させる必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 16

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(3) 一人一人を大切にす教育の推進
おける項目	小項目	学校間交流の促進
事務・事業名		小規模校等学校間交流事業
内	容	小規模校やへき地校の児童が学習や活動を共にすることで、学校間を越えて児童の交流を図るとともに、単独校ではできない集団での活動を通じて効果的・効率的な学習成果を上げる。
担 当 課		学校教育課
24 年 度 の 目 標		各自治区内の小規模校等が交流できるようスクールバスなどの交通手段を確保し、低学年・中学年・高学年ごとに授業や学校行事等の交流を実践する。
24 年 度 の 実 績		<ul style="list-style-type: none"> ・浜田自治区：後野小、佐野小、上府小、有福小の4校でスポーツ交流、外国語活動合同学習、宿泊体験活動、社会科見学等を実施した。 ・金城自治区：雲城小、今福小、波佐小の3校でゲームや合同学習を実施した。 ・旭自治区：今市小、木田小、和田小、市木小の4校で身近にある地域資源の見学、球技体験、宿泊研修や事前学習などを実施した。 ・弥栄自治区：弥栄小が陸上大会や体操大会にあわせて市内の他校との合同練習を実施した。 ・三隅自治区：井野小、井野小室谷分校、岡見小の3校で合同学習や給食を一緒にして交流を図るとともに、三隅小も含めた交流学習を実施した。
教育委員会の評価		<p>普段は少人数のために実践できないスポーツなどもあり、小規模校同士あるいは中学校が同じとなる学校同士の交流活動により、コミュニケーション力の向上や、学習意欲の向上を図ることができるものと考える。</p> <p>また、統合が決定している学校では、特に交流活動を強化したことで、統合後の子どもたちの不安解消に結びついている。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 17

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(4) 健やかな育ちを支える食育と体力づくりの推進
おける項目	小項目	食育の推進
事務・事業名		食育推進事業
内 容	<p>浜田市統一献立により、浜田市や全国の郷土料理を食する機会を設けたり、郷土食や地産物を取り上げる授業を行ったり、高齢者や給食食材生産者等と児童生徒が交流をしながら会食をする交流給食を行う等により、子ども達が生涯にわたって健康に生活を送るための能力と態度を身に付け、学校給食を通じて子ども達の望ましい食習慣の形成や地場産物の利用拡大による食料生産等に対する理解と関心を深める。</p>	
担 当 課	教育総務課	
24 年 度 の 目 標	<p>学校給食による子ども達の望ましい食習慣の形成や地場産物の利用拡大による食料生産等に対する理解と関心を深める食育推進を図るために、栄養教諭による指導や、地元産食材の利用による地産地消推進などを実施する。</p>	
24 年 度 の 実 績	<p>地元食材を取り入れた学校給食の実施に取り組んだ。 また、浜田市統一献立では、各自治区の郷土料理や全国の郷土料理を給食に取り入れ、授業においても郷土食や地産物を取り上げる等、食と学びの両面から食育の推進を図った。 他にも高齢者や給食食材生産者等の方々と児童生徒が交流をしながら会食をする「交流給食」や、児童生徒が考えた栄養バランスが取れた献立を給食に取り入れる「希望献立の導入」を行い、食育の推進を図った。 平成24年度は、農林課から提供を受けた地元のいちご、ピオーネ、梨、柿を給食で提供するとともに、一部の学校では生産者との交流も行った。</p>	
教育委員会の評価	<p>栄養教諭による食育指導については、食事が健康に及ぼす影響について理解・学習する上で、一定の効果があったものと考えている。 農林課から提供を受けた、地元のいちご、ピオーネ、梨、柿を給食で提供し、一部の学校において生産者との交流も行ったことは、地場産物の利用拡大及び食料生産等に対する理解と関心を深めることに有意義であったと考える。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 18

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(5) 安全で安心な教育環境の整備
おける項目	小項目	子ども見守り活動等の充実
事務・事業名		はまだ子ども安全センター事業
内	容	子どもたちが安全で安心して教育を受けられるよう、学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、学校・家庭及び地域の関係機関・団体が連携を図りながら、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を整備する。
担当課		学校教育課
24年度の目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の安全確保に向けて防犯意識の高揚を図るとともに、学校・家庭・地域が連携した子ども見守り活動の推進を積極的に図る。 2 防犯ボランティアへの支援、緊急時における学校支援体制の整備を図る、「子ども見守りプランづくり事業」を実施する。
24年度の実績		<ol style="list-style-type: none"> 1 学校において、危機対応と安全指導を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1)防犯教室、不審者侵入対応訓練、ネットトラブル防止教室 等 (2)登下校時の安全管理、通学路の安全点検の実施 (3)スクールガードリーダーの配置による小学校の巡回訪問及び安全指導 2 防犯ボランティア団体、保護者、地域との連携を図った。 <ol style="list-style-type: none"> (1)浜田子ども安全連絡協議会で情報交換、防犯研修会を開催 (2)三隅小、三階小で子ども見守り隊を発足（プランづくり事業） (3)教育委員会ボランティア表彰の実施 3 不審者や有害鳥獣の情報発信（メール、FAX）を行った。
教育委員会の評価		<p>防犯教室、不審者侵入対応訓練により児童生徒や教職員の防犯意識が高められた。</p> <p>また、ネットトラブル防止については、各種研修会等を通じて啓発を図ることにより教職員・保護者の理解が深まり、適切な指導が可能となった。</p> <p>「子ども見守りプラン」ではスクールガードリーダーや防犯協会等の関係機関・団体との連携が深まり、子ども見守り活動の推進につながった。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 19

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	I 生きる力を育む学校教育の充実 (5) 安全で安心な教育環境の整備 子どもの就学支援
事務・事業名		要保護・準要保護児童生徒扶助
内容		子どもたちが安全で安心して教育を受けられるよう、学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、学校・家庭及び地域の関係機関・団体が連携を図りながら、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を整備する。
担当課		学校教育課
24年度の目標		就学援助の申請は、ここ数年700件を超える申請があり、不況のあおりを受けて今後も申請数は増えていくと予想さえる。 子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、速やかに認定の審査を行う。
24年度の実績		要保護は、小学校13件、中学校10件、合計23件の申請があり認定した。 準要保護は、小学校449件、中学校257件、合計706件の申請があり認定した。 認定者には学用品費、校外活動費（交通費等）、修学旅行費、遠距離通学費、給食費等、医療費の扶助を行った。
教育委員会の評価		要保護・準要保護の認定事務は迅速かつ適正に処理することができた。 子どもたちの教育を受ける権利を保障する意味でも、経済面での不安を抱える家庭に対する公的扶助は必要であり、今後も本制度のさらなる周知を図り安心して学ぶことのできる環境を提供していく必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 20

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	I 生きる力を育む学校教育の充実 (5) 安全で安心な教育環境の整備 学校施設の整備
事務・事業名		学校統合計画の推進
内容		子どもたちにより良い教育環境を整えることを最優先すべきとの観点から、極少人数学級（複式学級）の解消を図ることが望ましいという学校統合審議会の答申を受け、計画においては、極少人数学級（複式学級）の解消を図ることとし、小・中学校の適正配置については、浜田市内を地区ごとに分け、それぞれ極小規模学級（複式学級）の解消を図り、教育環境の整備を図る。
担当課		教育総務課
24年度の目標		浜田市学校統合計画については、平成22年7月に策定し、平成23年12月に佐野小学校、旭地区小学校の統合について計画変更している。平成24年度は学校統合計画に基づき、平成25年3月に後野小学校、佐野小学校、木田小学校、井野小学校及び井野小学校室谷分校の5校が閉校となるが、統合校への統合が円滑になされるように取り組む。また、全ての統合対象校区から理解を得るために引き続き地元説明会等を行い、学校統合計画を着実に進めていく。
24年度の実績		平成24年度には全ての統合対象校区から理解を得ることができ、学校統合計画の目標年度の統合実現に向けて前進した。浜田東部地区については、対象地区の同意を得たため、平成27年4月の開校に向けた統合新校舎建築事業に着手した。旭地区の学校統合については、和田地区及び市木地区及び保護者から学校統合の前倒しの要望が出されたため、検討した結果、地域の総意であることや和田小、市木小の児童数の想定以上の減少等を勘案し、和田小学校、市木小学校を前倒しして平成26年4月に今市小学校へ編入し、平成28年4月の新校舎建設時に新設統合校を設置することとした。
教育委員会の評価		子どもの教育環境を整えることを最優先として、学校統合を進めており、学校統合計画の説明会には教育委員が出席して、直接、保護者や地域の皆さんの意見や要望を伺い、教育委員会定例会や臨時会、教育委員協議を行い論議を重ね、計画策定に至ったところである。また、旭地区の要望については、保護者及び地元の総意として出されており、その意味を重く受け止め、教育委員会において検討した結果、統合時期を前倒ししたものである。統合対象校区全てから理解を得られたことから、今後はその実行を確実なものとする必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 21

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(5) 安全で安心な教育環境の整備
おける項目	小項目	学校施設の整備
事務・事業名		統合小学校建設事業
内 容	<p>学校統合計画においては、極少人数学級（複式学級）の解消を図ることとし、小・中学校の適正配置については、浜田市内を地区ごとに分け、それぞれ極小規模学級（複式学級）の解消を図ることとしており、浜田東部地区と旭地区については、それぞれ新たな統合小学校を建設し、教育環境の整備を図る。</p>	
担 当 課	教育総務課	
24 年 度 の 目 標	<p>浜田東部統合小学校については、これまで、平成20年度及び平成21年度に出された学校統合計画審議会答申の説明会を開催し、保護者や地域の意見を聴取してきたが、そこで出された意見等も参考にし、策定された浜田市学校統合計画に基づき、着実に建設事業を進める。一方で、旭地区統合小学校についても平成28年度に計画通り開校できるよう、建設計画の検討を進める。</p>	
24 年 度 の 実 績	<p>浜田市学校統合計画をもとに、浜田東部においては8月より浜田東部統合小学校の実施設計に着手した。 また、旭においては地元説明を実施し、建設場所を決定した。 【計画の内容】 浜田東部：現国府小の校地内に新築校舎を建設し、上府小、国府小、有福小を統合した新設校を平成27年度に開校する。 旭：平成26年度に、今市小、和田小及び市木小を統合し、新設校を平成28年度に開校する。</p>	
教育委員会の評価	<p>新設校の位置決定に当たっては現地調査や建築技師の意見聴取等も行い、教育委員会定例会や臨時会、教育委員協議を行い議論を重ね、建設の検討を進めた。 また、旭地区の要望については、地元の総意として出された要望を重く受け止め、新たな統合小学校の建設の要望について検討を重ね、統合小学校の建設場所を決定した。今後、目標年度の統合に合わせて、新たな統合小学校の建設を着実に進めていく必要がある。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 22

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	I 生きる力を育む学校教育の充実
プランに	中項目	(5) 安全で安心な教育環境の整備
おける項目	小項目	学校施設の整備
事務・事業名		学校の耐震化の推進
内 容		「建築物の耐震改修の促進に関する法律」及び「文部科学省通知」に基づき、安全で安心な教育環境づくりを図るため、学校施設の耐震化を推進する。 耐震診断、補強計画、補強工事と順次実施し、耐震補強の完了目標年度を平成25年度とする。
担 当 課		教育総務課
24 年 度 の 目 標		耐震2次診断の結果、診断値が0.7未満となった学校施設について、耐震補強工事を行う。
24 年 度 の 実 績		○耐震補強工事 7校 石見小屋体、美川小屋体、雲城小屋体、第一中屋体、第二中屋体、金城中校舎・屋体、旭中屋体
教育委員会の評価		子どもや学校職員等の安全・安心確保のためにも、学校の耐震化事業は急がれる課題である。 今年度については、年次計画どおりに耐震補強工事を行うことができた。

教育委員会自己点検・評価表

No. 23

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子 プ ラ ン に お け る 項 目	大項目 中項目 小項目	I 生きる力を育む学校教育の充実 (5) 安全で安心な教育環境の整備 学校施設の整備
事 務 ・ 事 業 名		学校給食施設の統合
内 容		<p>金城、旭、弥栄については平成21年度から（公財）浜田市学校給食会へ調理業務の委託を実施しているが、三隅では単独校方式を残している。</p> <p>これらの学校給食施設の集約を図り、金城自治区と旭自治区の学校へは金城学校給食センターから、浜田自治区、弥栄自治区及び三隅自治区の学校へは浜田学校給食センターから配食することとする。</p>
担 当 課		教育総務課
24 年 度 の 目 標		<p>平成21年度から各自治区で説明会を開催しているが、全市的な理解を得るに至っていない。</p> <p>学校統合計画との整合性や、必要経費の縮減のあり方などを全庁的な問題ととらえ、総合的に再検討する。</p>
24 年 度 の 実 績		<p>学校給食施設統合庁内検討会議を設置し、教育部だけでなく、総務部、産業経済部、財政担当で給食施設の統合について、全庁での協議を行った。</p> <p>庁内検討会議による報告書は、平成25年度中を目標にまとめることとした。</p>
教育委員会の評価		<p>学校給食施設の統合については、学校統合計画の変更や東日本大震災により指摘された災害時の給食施設の重要性なども踏まえて、あらゆる方向性について検討をする必要があり、公共施設再配置計画が策定される平成27年度において庁内検討会議の報告書とも併せて総合的に検討し、市としての方針を決定することとしたい。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 24

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(1) 子どもたちを健やかに育むための家庭教育の充実と地域との連携
おける項目	小項目	家庭の果たす役割の再認識
事務・事業名		通学合宿
内 容	<p>公民館の主催事業として実施する通学合宿を支援する。 子どもたちが地域住民や大学生の協力を得て寝泊まりし、炊事などを自分達の力で行い、学校へ通学。集団生活を通して、規則正しい生活リズム（早寝・早起き・学習・食事・ノーテレビ等）を体感する。</p>	
担 当 課		生涯学習課
24 年 度 の 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・計画時には、教育委員会が公民館の相談相手となる。 ・県が進める「ふるまい向上」の視点も取入れる。 ・通学合宿について広報する。
24 年 度 の 実 績		<p>① 周布小学校 主催：周布公民館（会場 周布公民館） 時期：7月初旬 3泊4日 特色：4年生以上、もらい湯、ドラム缶風呂、県大生の支援</p> <p>② 弥栄小学校 主催：杵束公民館（会場 大斉集会所） 時期：7月 2泊3日 特色：5年生以上、朝食作り、県大生の支援</p> <p>③ 三隅小学校、井野小学校及び井野小学校室谷分校 主催：白砂公民館 時期：10月 2泊3日 特色：3年生以上、もらい湯、統合を意識した仲間づくり、県大生の支援</p>
教育委員会の評価		<p>教育委員会のコーディネートにより、県大生のボランティア参加が増えており、公民館や地域住民の負担が軽減され、好評を得ている。 ふるまい向上の視点を取入れる働きかけをしたことにより、各館で礼儀やあいさつに重点を置く取組が見られた。 リーフレット「地域ぐるみで子どもを育み子どもも大人も高まり合おう」を作成し、その中に家庭教育の支援として「通学合宿」についても取り上げ、推進を図った。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 25

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(1) 子どもたちを健やかに育むための家庭教育の充実と地域との連携
おける項目	小項目	P T A活動との連携強化
事務・事業名		浜田市P T A連合会連携事業
内	容	浜田市P T A連合会が実施するP T A活動の充実に向けた研修事業を支援するとともに、子どもに関する市教育施策等について意見交換をする中で連携を強化する。
担 当 課		青少年サポートセンター
24年度の目標		(1) 浜田市P T A連合会研修大会に対する事業経費の助成 人間性豊かな子どもの育成を目指し、P T Aの進むべき方向を研修する事業に対する助成を行う。 (2) 浜田市P T A連合会役員と教育委員会事務局との意見交換会の開催 定期的な意見交換会を開催や研修会等に参加し、学校、家庭、地域における教育環境の課題解決に向け協議する。
24年度の実績		(1) 浜田市P T A連合会研修大会事業費助成 ・実施日 平成24年7月29日(日) ・内 容 講演会 講師：生重幸恵(NPO法人スクールアドバイザーネットワーク理事長) 演題：今、PTAに期待されること ～地域全体で子どもをはぐくむために ・助成額 190,000円(事業経費338,593円) (2) 浜田市P T A連合会との意見交換会等の開催 ・浜田市P T A連合会委員総会参加 平成24年5月11日(金) ・第1回意見交換会 平成24年7月10日(火)17:30～19:30 市P連 9名、教委事務局 9名 ・浜田市P T A連合会研修大会参加 平成24年7月29日(日) ・第2回意見交換会 平成24年11月21日(水)17:30～19:40 市P連8名、教育委員5名、教委事務局8名
教育委員会の評価		はまだっ子プランでめざす子ども像実現のためには、家庭、学校、地域の融合、協働、連携が不可欠であり、その中核的活動組織であるP T Aの役割は重要である。 今年度は市P連役員と教育委員が子どもたちの様々な課題について意見交換を行い、共通認識を持つことができ大変有意義であった。 引き続きP T Aへの活動を支援するとともに、様々な課題に関する情報・意見交換等を行い連携を強化していく必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 26

はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(1) 子どもたちを健やかに育むための家庭教育の充実と地域との連携
おける項目	小項目	地域との連携による子どもの育成
事務・事業名		ふるさと教育推進事業
内	容	子どもたちを巡る様々な課題を解決するため、地域住民が学校教育へ参画したり自主的な学習活動や社会参加活動を促進するなど、学校と家庭と地域が一体となった体系的な教育活動を推進するため、地域人材の養成研修等を実施する。
担 当 課		生涯学習課
24年度の目標		<p>「子どもにつけたい力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々を通して、個性あふれるふるさとの魅力に触れさせることで、子どもたちの豊かな人間性や社会性、ふるさとを愛する心、主体的な学び・表現力などを育む。 <p>「地域の体制作り」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館及び地域では、積極的に地域の学校・子どもに関わることを通して、地域の活性化を図る。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・各公民館でのふるさと教育の推進 学校支援地域本部事業のコーディネート役割を担いふるさと教育の支援を行っている。 ・公民館活動交流展の開催 期日：2月9日(土) 会場：三隅中央会館 内容：午前中は、公民館で行った社会教育、ふるさと教育の実践報告やパネルディスカッションを行い、会場が一つになった。午後は、グループワークや意見交流会をする中で情報交換を行い、公民館活動、ふるさと教育への意識啓発を行った。 ・「地域ぐるみで子どもを育む」リーフレットの作成(増刷) 「子どもをどのように育てるのか」を視点に浜田市教育振興計画「はまだっ子プラン」を策定しました。この計画の実現に向けて、[地域の力を学校へ][家庭教育の支援][放課後や休日の豊かな学びや体験]が市内各地でそれぞれの地域に合わせた取組が行われており、その中からいくつかを紹介し、事業の啓発をした。
教育委員会の評価		<p>子どもへの教育は、学校だけで行うものではなく、子どもたちがよりよく育っていくためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、お互いに手をつなぎ、地域ぐるみで取組むことが大切である。</p> <p>このような中、公民館では、学校支援活動を推進し、地域活動に参加したボランティアの延べ人数が2年連続で7,000人を超えたことは、評価すべきである。</p> <p>また、取組紹介パンフレットも各種会議、委員に配付し、事業の啓発に貢献している。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 27

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(1) 子どもたちを健やかに育むための家庭教育の充実と地域との連携
おける項目	小項目	地域との連携による子どもの育成
事務・事業名		子どもの居場所づくりの推進
内 容		「子どもの成長を支える地域の連携体制づくり」の実現のため、放課後や週末等の子どもたちの適切な遊びや生活の場を確保し、小学校の余裕教室などを活用して、地域の方々の参画を得ながら、学習や遊び、スポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取り組みを実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
担 当 課		生涯学習課
24 年 度 の 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後対策2事業（放課後子ども教室推進事業、放課後児童健全育成事業）の推進に加え、放課後や休日の子どものたちを支えていくための他事業・他団体との連携を推進する。 ・学校支援地域本部事業で進めている学校と地域との連携等の成果を活用し、放課後やそれ以外の取り組みにおいても必要に応じて校区コーディネーターが調整を行う。
24 年 度 の 実 績		<p>① 放課後子ども教室推進事業（子ども教室事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まちな縁側（浜田のまちな縁側、112回、対象：幼児～中3） ○美川子ども教室（美川公民館、184回、対象：幼児～中3） ○あさひ子ども広場（今市公民館、152回、対象：小1～中3） ○市木子ども広場（市木小学校、33回、対象：小1～6） ○和田子ども広場（和田小体育館、139回、対象：小1～6） ○木田子ども広場（木田小学校体育館、43回、対象：小1～中3） <p>② 放課後児童健全育成事業（児童クラブ事業）※健康福祉部担当</p> <p>③ 公民館事業</p> <p>※放課後・休日事業、振休対策、長期休業事業等実態に合わせ実施</p>
教育委員会の評価		<p>放課後子ども教室に関しては、昨年度同様の実施。児童クラブとの意見交換会や、県大生のボランティア参加等、教育委員会が調整役となり、取組が活性化した。</p> <p>子ども教室がない校区においても、公民館のはたらきかけにより、その地域の実態に応じた取組が増えてきている。</p> <p>中でも、統合小学校における地域で子どもを育む対策として、三隅自治区の井野地区のまちづくり推進協議会において、子ども教室の開所に向け協議を重ね、開所に向け協議が整った。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 28

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	II 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成 (1) 子どもたちを健やかに育むための家庭教育の充実と地域との連携 地域との連携による子どもの育成
事務・事業名		青少年自立支援事業
内容		不登校、ひきこもり・ニートなど日常生活を送る上での困難を抱える子ども・若者に対して、居場所や様々な体験活動の場を提供することにより、社会参加や就学・就労等社会的自立に向けた支援を行う。
担当課		青少年サポートセンター
24年度の目標		(1) ひきこもり・ニートなどの社会参加・自立に向けた支援 不登校やひきこもり状態にある子ども・若者が自宅から出て気楽に過ごせる居場所の提供、及び自立に向けて他者と関わりながら行う体験活動や職場体験実習事業等を実施する。 (2) 浜田市子ども・若者支援地域協議会の設立 日常生活を送る上で様々な困難を抱える子ども・若者の支援にあたっては、関係機関の連携が必要なことから、子ども若者支援法に基づく地域協議会を設置する。
24年度の実績		(1) ひきこもり・ニートなどの社会参加・自立に向けた支援 ・居場所利用者；延945人(実利用者58人、内小中学生22人) ・体験教室・活動；148回、延437人参加 ・職場体験実習；参加者4人、4事業所 ・若年無業者(ひきこもり、ニート)相談；69人 (内就労者24人、内職業的自立者6人) (2) 浜田市子ども・若者支援地域協議会の設立 浜田市内の教育、福祉、保健・医療、更生保護、雇用など27の関係機関・団体により、平成25年2月17日に浜田市子ども・若者支援地域協議会を設置した。
教育委員会の評価		平成22年4月の子ども・若者育成支援推進法施行を受けての平成23年度からの新規事業である。 若年無業者の自立に関して、支援対象者の約1/3は何らかの仕事に就くことができたものの、職業的自立ができたと判断される者は少数に留まっており、継続的で地道な支援が必要である。 社会の変化や家庭環境、発達障害など様々な要因により、生きづらさ感を抱えた子ども・若者は、今後ますます増加するものと推測され、地域協議会等関係機関の連携支援が重要である。

教育委員会自己点検・評価表

No. 29

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(2) 生涯の各期に対応した学習機会の提供
おける項目	小項目	公民館活動の充実
事務・事業名		公民館活動推進事業
内 容		公民館は社会教育施設として、各期における個人の要望と社会の要請に的確に対応し、地域住民全体が集い、地域コミュニティの形成を通して地域課題を解決する拠点として十分に機能することが求められており、公民館事業の見直し、改善、実施を支援し、公民館職員研修の充実を図る。
担 当 課		生涯学習課
24 年 度 の 目 標		<p>平成19年度より始まった県の事業「実証！『地域力』醸成プログラム」に本年度も引き続き公民館が参加しやすいよう企画・立案時に支援を行う。また、選定された公民館に対しては、事業実施に対し支援を行う。</p> <p>また、浜田市活動交流展開催に関し事務局として支援する。社会教育施設としての公民館のあるべき姿について、公民館の機能である「つどう」「まなぶ」「むすぶ」を検証し、公民館活動がより充実するよう研修・情報交流・広報の機会として開催する。</p>
24 年 度 の 実 績		<ul style="list-style-type: none"> ・「実証！『地域力』醸成プログラム」 継続：7館 新規：1館 今年度も1館が応募し、プレゼン大会を経て選定された。応募に向けた企画内容の検討時には、教育委員会の職員が支援にあたった。 ・浜田市公民館活動交流展 平成25年2月9日(土)、三隅中央会館において、講師に、越田先生(学社融合研究所代表)を今年も迎え、公民館職員・地域住民・学校関係者・議会議員・行政職員等、約500名の参加により、会場が一つになり熱い議論が交わされた。
教育委員会の評価		<p>「実証！『地域力』醸成プログラム」に取り組む館は、地域の課題を捉え、地域住民を巻き込みながら課題を解決していこうとする人材育成に向け、事業の立案・実施を全力で取り組み、多くの成果を挙げている。教育委員会もこれを支援するとともに、事業完了後(事業採択から3年経過)の評価及び対応の検討が必要である。</p> <p>浜田市公民館活動交流展は、今年度が3回目となる。自館の取組を振り返り自己評価をパネルに表現し、発表することが定着してきた。地域住民の参加も増え、啓発活動としても有効な場となっている。公民館職員にとってはパネル作成や事例発表等、負担を感じている面もあるが、成果が実感できる事業と考える。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 30

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(2) 生涯の各期に対応した学習機会の提供
おける項目	小項目	国際理解に向けた交流の推進
事務・事業名		生徒国際交流事業
内 容	中国石景山区、韓国浦項市のそれぞれの教育委員会と協定を締結し、隔年で相互の訪問活動を実施し、異なる文化を理解・尊重する態度を育む。	
担 当 課	生涯学習課	
24 年 度 の 目 標	<p>今年度は、浦項市との交流の年ではあるが、ここ数年交流先の事情により中止となっている。今後、浦項市の相互交流について再開できるよう浦項担当者と協議を行っていく必要がある。</p> <p>また、中国においても当初予算要求時期に、次年度の取り組みを確認する。</p>	
24 年 度 の 実 績	<p>平成24年度は韓国浦項市教育委員会との交流を予定していたが、韓国側の担当部署との連絡不調により交流活動を中止した。</p> <p>中国においては、当初予算要求時期に、次年度の取り組みを確認するため担当部署にFAXを送った。</p>	
教育委員会の評価	<p>生徒国際交流事業は、2年前の事業の様子をみても意義深いと認識している。お互いの国を訪問し、各々がホームステイをして、それぞれの家庭の生活様式などを学ぶことで、一層有意義なものとなっているため、今後も交流事業は継続する方針を維持していく。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 31

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(2) 生涯の各期に対応した学習機会の提供
おける項目	小項目	人権教育の推進
事務・事業名		人権尊重のまちづくりの推進
内	容	第3回浜田市人権尊重のまちづくり推進大会（隔年開催） 同時開催：「しまね人権フェスティバル2012」 「平成24年度人権・同和問題を考える県民のつどい」
担当課		人権同和教育室
24年度の目標		平成20年6月に「浜田市人権尊重都市宣言」を制定し、一人ひとりが大切にされ、人が輝き、文化のかおる人権尊重のまちづくりをめざしている。また、平成24年3月に策定した「浜田市人権教育・啓発推進基本計画（第2次）」に基づき、人権・同和教育をすべての教育の基底に据えて、子どもたち一人ひとりの人権と進路が保障される教育の推進に努める。
24年度の実績		平成24年10月28日に、隔年で開催している「浜田市人権尊重のまちづくり推進大会」を金城町のふれあいジムかなぎにおいて開催した。今回は第3回となる。また、同時開催で、「しまね人権フェスティバル2012」及び「平成24年度人権・同和問題を考える県民のつどい」が開催された。たくさんのイベントや人権・同和問題学習の成果をまとめた展示等があり、多くの県民が来場し、人権尊重の輪が広がった。
教育委員会の評価		平成16年度以来、8年ぶりに島根県の大会を浜田市で開催した。多くのイベント、展示や発表、市内の幼稚園、小中学校、高等学校の協力もあり、市民（県民）の人権意識高揚につながったと考える。

教育委員会自己点検・評価表

No. 32

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(3) 生涯学習環境の整備と機能の充実
おける項目	小項目	図書館機能の充実
事務・事業名		中央図書館の建設
内	容	図書、その他資料の充実を図り、調査研究に供すると共に、地域課題解決のためレファレンス機能の強化を図る。また、市民の要望にも配慮した図書整備を行い、幼児から高齢者までのシームレスな読書活動の推進を図る。更には、重要な社会教育施設の一つとして、市民の自発的な活動を促進するとともに、これらの活動の積極的なサポートに努める。
担当課		生涯学習課図書館準備室
24年度の目標		ハード面においては、平成25年8月上旬までの開館を達成するため、工期内の竣工が可能となるよう万全の行程管理を行う。 また、ソフト面においては、機運醸成を図るため、愛称を全国公募する。更には、市民との協働による図書館運営の第一歩として、市民団体との共催による開館記念イベントの開催や広告掲示物の共同制作を行うための準備を行う。
24年度の実績		ハード面においては、建築主体工事など主要工事を工期内に竣工できるよう、万全の行程管理を行うことができた。 また、ソフト面においては、12月に愛称を全国公募し、翌3月に決定・公表することができた。 市民団体との共催による開館記念イベントの開催や広告掲示物の共同制作に向けては、市民団体で組織する「図書館を核としたまちづくり事業実行委員会」へ参画し、市民との良好な関係づくりと具体的な計画策定に取り組んだ。
教育委員会の評価		ハード・ソフト両面において、概ねスケジュールどおり計画を進めることができていると判断する。いよいよ来年度は、蔵書移管など開館に向けた様々な準備作業や、開館記念式典及びボランティアや市民との協働による開館記念行事の開催準備があるが、万全の態勢で開館できるよう新館長を中心としてしっかりとした取り組みを期待する。

教育委員会自己点検・評価表

No. 33

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(3) 生涯学習環境の整備と機能の充実
おける項目	小項目	図書館機能の充実
事務・事業名		三隅図書館の建設
内 容		三隅図書室は昭和59年に開館したが、平成9年の小学校統合移転を契機に利用状況等が低下している。現在は1人当たりの蔵書数や年間の貸出者数、貸出冊数等が市平均・他自治区平均を下回っている状況にあったため、三隅自治区として新図書館を建設し、図書環境の整備、改善を図ることとした。
担 当 課		生涯学習課・三隅分室
24年度の目標		①三隅図書館を建設する。 ②太陽光発電設備を設置する。 ③三隅図書室の閉室及び蔵書の新図書館移転準備を行う。
24年度の実績		①三隅図書館の建設 平成24年5月10日に工事入札を行い、本体工事を本川建設㈱、電気設備工事を島根電工㈱、機械設備工事を㈱電設サービスに決定した。工事着工は平成24年5月16日、竣工は平成25年3月8日。図書館建設費用は、附属建物工事・サイン設置工事・備品購入費・設計監理委託等を含め284,283千円だった。 ②太陽光発電設備の設置 三和電工㈱に工事委託し完了した。定格出力は約60KWで余剰電力は売電する。また、二酸化炭素排出抑制補助金を申請し、事業費40,950千円の内20,360千円の補助金交付を受けた。 ③三隅図書室の閉室及び蔵書の新図書館移転準備 三隅図書室での貸出を平成24年12月28日で終了し、翌年2月1日に図書室を閉室した。また、蔵書の移転準備のためにボランティアを募り、平成24年6月1日からブックカバー貼付け処理を開始した。この間に7名の皆様にご協力いただき、新図書館への移転準備を進めた。
教育委員会の評価		三隅図書館建設は、三隅自治区の住民2,009名の図書館建設要望から始まり、三隅自治区地域協議会で検討を重ねて建設が決定した経緯がある。この地域住民の気運の高まりが、これからの図書館運営に大きな手助けになるものと考えている。 平成24年度の目標については全て達成することができた。三隅の地域特性を生かすため、また、地域から愛着を持たれるようにと、屋根には石州瓦を用い、内装には県産木材を使用した。さらに、内部サイン全てに地元産石州和紙を取り入れたことにより、柔らかな空間を創り出すことができた。

教育委員会自己点検・評価表

No. 34

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(3) 生涯学習環境の整備と機能の充実
おける項目	小項目	図書館機能の充実
事務・事業名		子ども読書活動推進計画の策定
内容		学校、家庭、地域及び行政が連携し、すべての子どもがあらゆる機会に自主的に読書活動を行うことができる環境の整備を推進するとともに、読書活動を通して子どもが言葉を学び、豊かな感性や表現力、想像力を身につけ、より深い人生を生きていくことができるよう、本計画を策定する。
担当課		生涯学習課図書館準備室
24年度の目標		本計画の策定
24年度の実績		<p>図書館協議会、学校図書館部会及び公民館連絡協議会など、読書活動推進の役割を担うべき関係団体等の代表者で組織する検討委員会を立ち上げ、計画の骨子をまとめ、予定どおり本年度中に策定することができた。</p> <p>平成24年 6月 第3回市内部調整会議開催 8月 浜田市子ども読書活動推進計画検討委員会立ち上げ 第1回検討委員会開催 9月 第4回市内部調整会議開催 10月 第5回市内部調整会議開催 11月 第2回検討委員会開催 平成25年 2月 第3回検討委員会開催（最終） 3月 計画策定</p>
教育委員会の評価		<p>国の「子ども読書活動の推進に関する法律」に基づき、島根県においても「島根県子ども読書活動推進計画」が策定されており、本計画の策定は本市図書館行政において急務となっていた。</p> <p>今後は、本計画に基づき、中央図書館を中心として学校、地域及び関係各機関とが緊密に連携を図り、子どもの読書活動の推進に向け実効性ある取り組みが行われるよう期待する。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 35

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成 (3) 生涯学習環境の整備と機能の充実 図書館機能の充実
事務・事業名	読書活動・移動図書館	
内容	<p>子ども読書会を通して感性を養い、想像力豊かな子どもを育むとともに、読み聞かせボランティアの協力を得ながら読書週間行事、イベントを開催し読書普及に努める。</p> <p>移動図書館配本事業として、各自治区で図書館(室)から遠距離にあり利用しにくい住民へのサービスの充実及び子ども読書環境整備を図り、利用拡大に努める。</p>	
担当課	生涯学習課	
24年度の目標	<p>年間を通じ読書推進活動(春の読書週間、夏休み行事、秋の読書週間行事、広報PR、子ども読書会)を充実させ利用拡大に努める。</p> <p>なお、今年度は、中央図書館の開館準備のため、平成25年1月末をもって浜田図書館を閉館する予定であることから、これを考慮し目標を設定することとする。</p> <p>年間貸出冊数目標：81,000冊(内、移動図書館分6,600冊) 子ども読書会：25回、参加数30名 絵本の読み聞かせ：20回、参加数60名 おはなしの会：15回、参加数延べ50名 秋の読書週間：参加者延べ450名 (おはなしマラソン、秋の朗読会、本のリサイクル市)</p>	
24年度の実績	<p>当初の計画どおり春の読書週間、夏休み行事、秋の読書週間行事、広報PR、子ども読書会等を実施し、年間を通じ読書推進活動を充実することができた。</p> <p>年間貸出冊数：77,146冊(内、移動図書館分5,612冊) 子ども読書会：29回、参加者40名 絵本の読み聞かせ：19回、参加者95名(こども53名・大人42名) おはなしの会：16回、参加者58名(こども32名・大人26名) 秋の読書週間：参加者延べ432名 (おはなしマラソン、秋の朗読会、本のリサイクル市)</p> <p>その他 読書活動サークル(委託事業)：史跡探訪2回</p>	
教育委員会の評価	<p>数値目標をクリアできなかった項目も一部あるが、全体としては概ね良好な活動及び実績であった。来年度は、中央図書館が開館することとなり、飛躍的な利用増大が見込まれる。本年度策定した「浜田市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の推進を図るとともに、高齢者や障害者など来館困難者に対するサービスの充実に向けた取り組みも期待されることである。</p>	

教育委員会自己点検・評価表

No. 36

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(3) 生涯学習環境の整備と機能の充実
おける項目	小項目	学校施設の開放
事務・事業名		学校開放事業
内 容		スポーツに親しむことができる環境を提供するために小学校・中学校の体育施設設備を開放する。
担 当 課		生涯学習課
24 年 度 の 目 標		今年度の目標としては、26校を約100団体へ開放し、スポーツの振興に取り組む。また、利用者連絡会議や管理指導者及び学校との連絡などを徹底し、現在の課題や問題などを調整・解決し、円滑な開放を目指す。
24 年 度 の 実 績		24年度における利用団体は、118団体（浜田95、金城5、旭3、弥栄1、三隅14）で、利用学校は26校になる。 3月に利用者連絡会議を開催し、学校開放の事務の流れ、キャンセルに伴う使用料の取り扱い、利用上のルールなどを徹底した。学校と利用団体との調整など頻繁に行い、行き違いのないように徹底した。
教育委員会の評価		スポーツに親しむ環境として学校開放により学校施設が広く利用されるようになっている。 利用にあたっては、利用者のモラル、ルールの徹底が課題であったが、利用者と協議する機会を設けたことで改善されてきており、引き続き取組を進めていく必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 37

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	Ⅱ 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成
プランに	中項目	(4) 学んだことを活かす地域活動の推進
おける項目	小項目	地域の教育力向上
事務・事業名		学校支援地域本部事業の推進
内容		学校支援地域本部事業を推進するにあたり、公民館関係者等を「校区コーディネーター」として、地域の情報の集約・人材発掘・調整者として育成する。学校支援活動を進めていくことで、地域の教育資源の発掘はもとより、学校にとっては学習内容の充実、地域にとっては学んだことを活かす機会となり、地域の教育力の向上をめざす。
担当課		生涯学習課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> これまでの学校のニーズに応じた学校支援に加え、公民館活動としての放課後や休日等の地域で子どもをはぐくむ活動も、本事業での推進内容とする。 校区コーディネーターの資質向上のための研修や、校区コーディネーター同士の情報交換や、市の推進姿勢の説明等のため、県主催の研修に加え、市で研修会を計画・実施する。 市統一の活動実績入力フォームを作成し、校区コーディネーターが各校ごとに入力し、データを蓄積する。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> 5年目となる事業(本年度より補助事業として実施)。中学校区単位に本部を置く。拠点は公民館として、公民館職員86名(一部職員外を含む)がコーディネーターとして地域ぐるみで子どもを育む取組を調整。 校区コーディネーターのはたらきかけによる放課後・休日の取組が増えた。 県教委主催の研修会に加え、市独自の研修会を実施 4月14日 浜田市校区コーディネーター研修(市教委) 7月5日、8月28日 校区コーディネーター研修会(県主催) 学校支援に関わったボランティアの人数：延べ7,494人(平成23年度 延べ7,758人)
教育委員会の評価		<p>公民館にとっては、コーディネート機能が実践を通して定着し始め、職員のスキルアップにつながった。また、学校からの依頼に応えていくことで、学校からの信頼感が高まった。</p> <p>子どもにとっては、地域住民と交流することにより、さまざまな体験や経験の場が増え、学力や規範意識、コミュニケーション能力の向上につながった。</p> <p>地域にとっては、社会教育活動での学び(公民館での活動・学び)を生かす機会ができ、生きがい・やりがいにつながった。また、学校支援をきっかけとした地域の絆の重要性が認識されつつあり、地域社会の新たな絆づくりが動き始めていると感じられる。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 38

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	Ⅲ 生涯を通じて活動できるスポーツの振興 (1) 心身の健康を養うスポーツ・レクリエーション活動の推進
事務・事業名		スポーツ推進委員
内容		地域における生涯スポーツの普及を図ることを目的に、スポーツ推進委員研修を実施する。また、市内のイベントに参加することにより、レクリエーション活動の普及に努める。
担当課		生涯学習課
24年度の目標		スポーツ推進委員の役割を明確にし、地域事情にあったスポーツを推進する。 地域にスポーツを浸透させ、老若男女だれでも気軽にできるニュースポーツを中心に普及を図る。
24年度の実績		各自治区ごとに、主に以下のスポーツの推進及び普及を図った。 浜田 ニュースポーツ「バウンスボール」「バグジー」の教室と大会の開催 金城 各種イベントへの協力、スポーツ振興を行う、総合型地域スポーツクラブの役員として様々な事業への参加・協力 旭 雪合戦・温泉卓球など地域色の強いスポーツの開催 弥栄 スポーツ教室を毎週月曜日開催 6月にファミリーバドミントン大会を開催 三隅 グラウンドゴルフ、ファミリーバドミントン大会を開催
教育委員会の評価		推進活動については、各地区ごとに特色のある活動ができています。その他、浜田レクリエーション協会のスポレク広場・浜田ビーチバレーボール大会・浜田市体育協会主催の浜田市総合スポーツ大会など様々なイベントに補助や手伝いなどで、スポーツやレクリエーションの普及への貢献は大きい。

教育委員会自己点検・評価表

No. 39

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	Ⅲ 生涯を通じて活動できるスポーツの振興
プランに	中項目	(2) スポーツ精神のかん養と競技力向上の推進
おける項目	小項目	
事務・事業名		トップアスリートを招いた教室の開催
内	容	子どもたちの心身の健全な成長に寄与することを目的として、JFAこころのプロジェクト「夢の教室」等の開催により、フェアプレー精神、夢を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さ、失敗や挫折に負けない心の強さをはじめ、人間の形成に欠くことのできない礼節の尊重、友情を育むことなど「スポーツ精神」の高揚を図り、スポーツ選手活用体力向上事業等を展開し、高いレベルのスポーツに触れる機会を拡充する。
担当課		生涯学習課
24年度の目標		トップアスリートを招いた教室を開催する。JFAこころのプロジェクト「夢の教室」や、日本体育協会のスポーツ選手活用体力向上事業をとおして、「本物」のスポーツ選手と触れ合い、子どもたちにスポーツの良さ・楽しさなどの魅力を普及する。
24年度の実績		JFAこころのプロジェクト「夢の教室」を2月12日（火）に木田小学校において、旭自治区内4小学校5～6年生（会場の木田小学校は3～4年生を含む全児童）を対象にして、世界的なトップクライマーであり、ボルダリングにおいて女性初の最高難易度V14を達成された尾川とも子さん、元Jリーガーで横浜マリノスで活躍された平間智和さんを夢先生としてお迎えし、開催した。
教育委員会の評価		世界を舞台に活躍されている夢先生の生きた言葉はどんな教科書よりも子どもたちを惹きつけていた。質問も多く飛び交い、レクリエーションにおいてもお二人の夢先生とのふれあいからチームワークの大切さを学びとる姿があった。 4校からは再度の開催を要望されるなど大変良好な評価を受け、有意義かつ実施する価値のある事業となった。 今後の課題としては、事業の継続及び開催回数が増に向けて調整を図る必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 40

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子 プ ラ ン に お け る 項 目	大項目	Ⅲ 生涯を通じて活動できるスポーツの振興
	中項目	(2) スポーツ精神のかん養と競技力向上の推進
	小項目	
事 務 ・ 事 業 名		スポーツ関係団体への支援
内 容		浜田市体育協会及び浜田市スポーツ少年団等スポーツ関係団体への支援を通して、競技力向上の推進を図る。
担 当 課		生涯学習課
24 年 度 の 目 標		市内の競技団体やスポーツ少年団の競技力向上や活動の支援として、下記のとおり補助を行った。 浜田市体育協会への補助金額 4,834,000円 浜田市スポーツ少年団への補助金額 700,000円
24 年 度 の 実 績		浜田市体育協会への補助金額 4,834,000円 (各競技団体への助成、広島カープOB会等の事業への活用など) 浜田市スポーツ少年団への補助金額 607,663円 (各団への助成など)
教 育 委 員 会 の 評 価		それぞれの競技団体やスポーツ少年団が補助金を活用して大会や普及活動などを円滑に行っているため、重要かつ大切な活動支援となっていると考える。

教育委員会自己点検・評価表

No. 41

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	Ⅲ 生涯を通じて活動できるスポーツの振興
プランに	中項目	(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備
おける項目	小項目	
事務・事業名		運動施設の補修計画
内	容	運動施設の老朽化等により改修を行い、安全・安心に利用でき、また市民のニーズに応じた運動施設の確保・整備を行う。
担当課		生涯学習課
24年度の目標		運動施設の老朽化等により改修を行い、安全・安心に利用でき、また市民のニーズに応じた運動施設の確保・整備を行う。 財源としては、可能な限り t o t o の助成金を活用し施設整備を図る。
24年度の実績		平成24年度に行った主要な改修は次のとおり。 ①サン・ビレッジ浜田照明改修工事 ②サン・ビレッジ浜田スケート場設備改修工事 ③金城総合体育館空調施設冷温水発生機取替工事 ④今福スポーツ広場グラウンドゴルフ場芝張他工事 ⑤金城総合運動公園多目的広場フラッグポール設置工事 ※なお、①に関しては、t o t o の助成金を活用した。
教育委員会の評価		市内には、建築から長期間経過した施設が多く、補修が頻繁に必要となっている。財政的なこともあり、全ての補修は難しいが、危機管理上、安全面を考慮した最低限の補修が必要である。 今後は t o t o 助成金の活用が見込めないため、それを前提とした補修を計画しなければならない。

教育委員会自己点検・評価表

No. 42

点 検 ・ 評 価 項 目		
はまだっ子 プ ラ ン に お け る 項 目	大項目	Ⅲ 生涯を通じて活動できるスポーツの振興
	中項目	(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備
	小項目	
事 務 ・ 事 業 名		総合型地域スポーツクラブの設置
内 容		地域スポーツの振興と拠点整備を図るため、引き続き総合型地域スポーツクラブの設立準備を促進する。
担 当 課		生涯学習課
24 年 度 の 目 標		各自治区での設置に向けて準備を進める。また、既設置地域のモデル的な取り組みを活かすため、各自治区はもとより公民館やスポーツ推進員、スポーツ少年団との連携を深め、地域スポーツの振興を図る。
24 年 度 の 実 績		三隅自治区において、平成25年度の設立に向けて準備・調整が行われた。
教育委員会の評価		<p>各自治区での総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、三隅自治区においてはスポーツ推進員など関係機関と設立に向けた準備・調整が行われている。</p> <p>今後の課題としては、浜田自治区においては拠点地域の拡充を図るうえで、公民館やスポーツ少年団など地域におけるスポーツのつながりを深める必要がある。また、弥栄自治区における設立に向けた努力が必要である。</p> <p>H22年度 浜田自治区 煌めきクラブ周布 H23年度 金城自治区 アスレチックきんた H24年度 旭自治区 あさひスポーツクラブ</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 43

点検・評価項目		
はまだっ子 プランに おける項目	大項目 中項目 小項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造 (1) ふるさとの文化を育む基盤づくり 伝統文化の保存・継承
事務・事業名		伝統芸能、伝統文化の継承
内容		地域で受け継がれてきた石見神楽や田囃子などの伝統芸能を保存・継承していくために、各団体が行う後継者育成活動や用具整備等への各種助成制度を活用できるように支援する。
担当課		文化振興課
24年度の目標		石見神楽、田囃子などの伝統芸能に対し、保存や継承をしていく団体の後継者育成活動または用具整備等の各種助成制度活用の申請支援。 申請件数 1件
24年度の実績		国の事業仕分けにより、伝統文化子ども教室事業（公益財団法人伝統文化活性化国民協会の助成）が、平成22年度をもって廃止となった。これにより、子どものみを対象とした継承事業の助成が皆無となり、文化庁が助成する「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」を通して、子どもを含めた地域住民のための伝統文化体験の機会を確保することとしたが、この事業は市町村単位で1事業として申請するため、今年度は申請件数が1件となった。
教育委員会の評価		文化庁が助成する「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」については、平成23年度～25年度の3年間計画を提出し、採択された事業であるためこの助成による継承事業については、申請件数が1件となる。 今後においては、財団法人地域創造が行う「地域の文化・芸術活動助成事業」「地域伝統芸能継承者（青少年等）育成事業」などに組み込まれている伝統文化継承事業の積極的な運用を図るため、関係諸団体への周知ほか支援を図る必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 44

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(1) ふるさとの文化を育む基盤づくり
おける項目	小項目	芸術・文化活動の活性化
事務・事業名		芸術・文化活動の活性化
内	容	市民の主体的な文化活動を推進し、地域性豊かな文化を創造するため、市美術展を開催するとともに、文化協会・文化団体等の活動支援及び活動に対する各種助成制度の活用支援を行う。 また、次代を担う子どもたちに「文化のかおるまち」の体現と豊かな情操を育むため、プロの音楽家による生の演奏を鑑賞するスクールコンサート等を実施。
担当課		文化振興課
24年度の目標		文化協会並びに文化施設、団体等の活動を支援するため、市民への事業の周知活動、広報活動を支援するほか、各種助成事業の情報提供を行う。 ・市美術展の開催 目標：出品点数300点 入館者数2,000人 ・スクールコンサートの開催（学校巡回公演） 目標：7公演7校 鑑賞者1,440人（児童、生徒、保護者等）
24年度の実績		文化協会並びに文化団体等の活動支援をして、51の事業を後援するほか、市民への周知活動の支援、広報での周知を図った。また、助成事業の活用については2施設において、しまね文化ファンド、エネルギー文化財団、文化庁等から総額10,043,922円の助成を受けた。 ・市美術展の開催 実績：出品点数274点 入館者数1,111人 ・スクールコンサートの開催（学校巡回公演） 実績：7公演7校 鑑賞者1,603人（児童、生徒、保護者等）
教育委員会の評価		文化協会並びに文化施設、団体において、効果的な事業運営のための市民への周知活動についての支援や広報依頼ほか、助成制度の積極的な活用がうかがわれた。今後においても、文化活動の活性化をより発展させる観点からも施設・団体の活動支援について、助成制度の活用の推進など多角的な支援が必要である。 美術展については各部門の出品数において増加が見込めず、展示総数も例年の300点台を維持できなかったが、写真及び自由作品において学生の出品の増もあった、今後若い世代の育成も含め、中学校・高校への美術展の趣旨や目的の周知などより積極的な働きかけが必要である。また、出品者の多くは旧浜田市民に集中しており、旧郡部の出品をどう増やすか今後の課題である。また、入館者数については、出品者数を増やすことが入館者増にも繋がると考える。 スクールコンサートについては、児童・生徒の反響も良く、学校サイドからの評価も高く、今後も継続して開催すべき事業と考える。

教育委員会自己点検・評価表

No. 45

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(2) 文化創造のための環境づくり
おける項目	小項目	芸術の鑑賞機会や発表の場の提供
事務・事業名		世界こども美術館創作室の活用
内	容	市民が身近に芸術に触れる機会として、世界こども美術館での体験型展覧会や世界こども美術館創作室を活用した、学校との連携によるミュージアムスクールや週末における創作活動ワークショップを実施する。
担当課		文化振興課
24年度の目標		<p>世界こども美術館でミュージアムスクールや創作体験活動の実施。 参加人数目標（述べ）：12,700人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムスクールの開催 目標：40回 受講者数2,000人 ・創作活動ワークショップの開催 目標：100回 受講者数10,700人
24年度の実績		<p>世界こども美術館において、市内小学校との連携により実施のミュージアムスクールを実施（ミュージアムスクールは、展覧会鑑賞及び創作活動の両方を行う。）。</p> <p>また、週末開催の創作活動ワークショップについても、多様な講座を用意し実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムスクールの開催 実績：51回 受講者数2,029人 ・創作活動ワークショップの開催 実績：203回 受講者数10,542人 ・合計参加人数 実績：12,571人
教育委員会の評価		<p>ミュージアムスクールについては、既に定着した事業であり、市内小学校はもちろんのこと市外の学校からの参加も多く、今年度においては、市外からの参加が市内からの参加を上回った。今後とも広域的なPRを勧めていく必要がある。</p> <p>創作活動ワークショップは、毎年多様な講座が開催され、親子での参加はもちろんのこと、多く子どもたちで週末の創作室は賑わっている。今後においても、魅力ある講座の開発並びに講師の発掘に努めるほか、講座の開催にあたっては職員の負担も多いので、ボランティアの発掘や活用についてさらに推し進める必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 46

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(2) 文化創造のための環境づくり
おける項目	小項目	芸術の鑑賞機会や発表の場の提供
事務・事業名		優れた芸術・文化の鑑賞機会の提供
内	容	市民が身近に発表に触れる機会を提供することにより、潤いのある文化のかおる生活を実感するため、世界こども美術館での地域に根ざした体験型展覧会、石正美術館での石本正画伯及び関連作家の絵画展、石央文化ホールでの音楽・演劇公演などを開催するとともに、これらの文化施設を芸術文化活動の発表の場として利用するよう促進する。
担当課		文化振興課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・世界こども美術館では、体験型の企画をはじめとした各種展覧会を9回開催する。 ・石正美術館では、日本画家・石本正画伯作品を展示する5回の企画展を開催する。 ・石央文化ホールでの公演（音楽、演劇、映画、舞踏など）は、10公演、入場者6,000人を目標とする。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・世界こども美術館では、「夢現代∞美術展」「おもしろ木のおもちゃ展」ほか、地域密着型の企画として「橋本明治・橋本弘安～親子二人展～」など9回の展示会を開催。企画展入館者数38,002人 ・石正美術館では、本館・新館を利用して、日本画家・石本正画伯作品の新作展など4回の特別展を開催するほか、石本正ゆかりの作家の作品展、地元作家の展覧会など企画展を開催。企画展入館者数13,672人 ・石央文化ホールでの公演（NHK公開セミナーのスペシャルトークショー、TSUKEMEN LIVE、ザ・のどぐろシンガーズ凱旋公演、名曲の旅NHK交響楽団メンバーと日本トップアーティストコンサート、石見演劇フェスティバル、自主映画など）14公演 入場者7,711人
教育委員会の評価		<p>世界こども美術館並びに石正美術館においては、入館者数において大幅な伸びはないものの、それぞれの館の特長を活かした企画展の実施はもちろんのこと、各種教室の開設、コンサートの実施など市民により開かれた施設として創意工夫が見られる。今後ともそれぞれの特長を活かし、より地域に密着し市民に開かれた美術館を目指すとともに、市外への情報発信も積極的に行う必要がある。</p> <p>石央文化ホールについては、事業内容において観客数に差が生れている。事業内容の決定のあり方、円滑なチケット販売など、効果的な事業運営のための方策を考える必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 47

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積
おける項目	小項目	文化財の調査研究
事務・事業名		文化財の調査研究
内	容	指定文化財を始め、浜田固有の地域財産である文化財に対する網羅的な情報収集、大学など専門機関との連携によって、文化財の把握と調査研究の充実を図る。
担当課		文化振興課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関等との協力・共同調査業務 大学をはじめとし、各図書館、教育委員会などの専門機関と連携をとり、情報提供や助言などを通じて文化財の調査研究を進める。 ・問い合わせに対する調査業務 市民や浜田市の文化財に関心をもつ市外の方からの問い合わせに対し、既存の資料または新規資料の調査を通して問い合わせに対応する。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関等との協力・共同調査業務 浜田城の石垣整備調査(姫路市教育委員会) 周知の埋蔵文化財包蔵地の実態調査(島根県教育庁文化財課) 方言調査(県立広島大学) 客船帳調査(大村市教育委員会)等 ・問い合わせ調査業務 竹迫町の歴史について 岸静江の書について 客船帳について 島村抱月の碑文について 等
教育委員会の評価		文化財の調査研究に関して、専門機関等との連携が図られている。文化財に対する網羅的な情報収集に関しては、文化庁による「歴史文化基本構想」に提言されているように、大学などの専門機関だけでなく、各地域団体等との連携を図る必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 48

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積
おける項目	小項目	埋蔵文化財の分布及び発掘調査
事務・事業名		市内遺跡発掘調査事業
内容		計画的な埋蔵文化財把握と、発掘調査等による各種開発事業との円滑な調整を図る。また遺跡地図台帳を作成し、埋蔵文化財の位置など基本情報の取得が容易に行えるようにする。
担当課		文化振興課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市内の各種開発事業との円滑な調整 各種開発事業に対して、開発事業者との協議を通して文化財の保護と他の公益との調整を図る。 ・旭自治区遺跡地図の刊行 旭自治区の埋蔵文化財の位置情報等を記した遺跡地図を刊行し、文化財保護のための基礎資料とする。
24年度の実績		<p>浜田市内の各種開発事業の申請に基づき、30件の分布調査を実施し、状況により工事中の立会を行った。また旭自治区の分布調査・台帳整理を行い埋蔵文化財の位置情報を記した遺跡地図を300部刊行した。また、今後の開発に備え、旭町重富地区の重富遺跡及び重富廃寺の範囲確認のための試掘調査を実施した。</p> <p>刊行物は各図書館・教育委員会などに配布し、またインターネット上においても情報を公開し、旭自治区の埋蔵文化財の周知を図った。</p>
教育委員会の評価		各種開発事業との円滑な調整により、文化財の保護と他の公益との調整を図った。インターネット上における埋蔵文化財位置情報の公開は県教育委員会も行っており、相互に連携しながら、開発事業者に周知を図る必要がある。

教育委員会自己点検・評価表

No. 49

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積
おける項目	小項目	文化財の保護活用
事務・事業名		文化財の保護活用
内	容	行政、地域が一体となって、地域に根ざした文化財の保護、活用を行い、子どもたちが郷土への愛着や誇りがもてるような機運醸成に取り組む。また、市内文化財を教材とし、郷土の歴史・文化への理解と誇りを深める学習機会の拡充を積極的に協力、支援する。
担 当 課		文化振興課
24年度の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・文化財防火デー関連事業の実施 毎年1月26日の文化財防火デーに合わせて、県教育委員会・市消防・文化財所有者と連携し、文化財の防災対策の推進を図る。 ・指定文化財説明板の修繕 老朽化等により劣化が見られる説明板の修繕を行う。 ・各種研修会等における歴史・文化の普及 15回 学校や公民館、地域の団体等からの依頼を受け、浜田市の歴史・文化に関する講演等を行う。 ・石見曇ヶ浦保存整備事業 石見曇ヶ浦賽の河原洞窟内の安全性確保のため、賽の河原洞窟内の落石処置を講じ、保護整備に向けた落石対策本体工事を行う。
24年度の実績		<ul style="list-style-type: none"> ・文化財防火デー関連事業の実施 1月28日に浜田自治区の文化財を対象とし、浜田護国神社・心覚院・龍泉寺・多陀寺において、文化財防火デーパトロールを行った。 ・指定文化財説明板等の修繕 老朽化等により劣化の見られた国指定天然記念物石見曇ヶ浦の文化財説明板及び立入禁止表示板の修繕を行った。 また、浜田城山に所在する浜田県庁の門の瓦の修繕を行った。 ・各種研修会等における歴史・文化の普及 22回 学校において3回、公民館において4回、地域の団体等において15回の浜田市の歴史・文化に関する講演等を行った。 また、主催事業として石見公民館において、講演会「島根の岩石入門」を開催し、46名の聴講があった。 ・石見曇ヶ浦保存整備事業 平成22年度の石見曇ヶ浦賽の河原洞窟内の落石調査を受け、平成23・24年度の2ヵ年計画で石見曇ヶ浦保存整備事業を計画し、今年度は賽の河原洞窟内の落石対策本体工事を実施した。
教育委員会の評価		<p>文化財防火デー関連事業においては、県・市消防・文化財所有者との連携を図り、文化財保護の強化が図られた。指定文化財説明板修繕・各種講演会への講師派遣等とおして、市内各地における文化財の理解と誇りを深める活動を行った。</p> <p>今後も文化財所有者等との連携やホームページの充実をとおして、文化財の保護活用を推進する必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 50

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積
おける項目	小項目	資料館等の活用
事務・事業名		子どもを対象とした資料館等の活用
内	容	資料館等を地域学習の拠点として有効活用を図りながら、総合的な学習や社会科見学を通し、文化財に対する子どもたちの意識の向上に努める。
担当課		文化振興課
24年度の目標		<p>5館1室の資料館において、小中学校の総合的な学習・社会科見学等への協力を行う。地域固有の文化財を間近に体感することによって、子どもたちの文化財に対する意識の向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習・社会科見学等への協力 <p>目標：回数7回 参加人数270人</p>
24年度の実績		<p>浜田郷土資料館において、浜田自治区の小学校8校、計261人の社会科見学の利用があった。</p> <p>民具を教材として活用し、実際に触れることによって、当時の人々の生活の知恵や工夫を学ぶ活動を行った。</p> <p>また、金城資料館の事業として、波佐小学校の3・4年生への出前授業を行った。</p>
教育委員会の評価		<p>資料館等を拠点として総合的な学習及び社会科見学等への協力を行うとともに、子どもたちが浜田の歴史や文化財に対して興味や関心を持つるように、資料館等の施設と子どもたちとの仲立ちとなるよう取り組む必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 51

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積
おける項目	小項目	御便殿の保存活用
事務・事業名		浜田城の啓発
内容		浜田城をはじめとする浜田の歴史や文化に触れ、子どもたちがふるさと浜田に対する愛着や誇りをもてるような環境づくりを進める。
担当課		文化振興課
24年度の目標		<p>浜田城建設期成同盟会事業を通じて、浜田城跡を中心とした浜田の歴史や文化に触れる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田城啓発イベント <ul style="list-style-type: none"> 「発見！浜田城・春の茶会」 「発見！浜田城・夜神楽と能・琴の世界」 <p>啓発事業イベント参加回数：2回</p>
24年度の実績		<p>下記イベントの他に、浜っ子夏祭り、BB大鍋フェスティバルにおいて、浜田城歴史クイズを開催し、浜田城の周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田城啓発イベント <ul style="list-style-type: none"> 「発見！浜田城・春の茶会」 実施日 平成24年4月7・8日 参加者数490名 「発見！浜田城・夜神楽と能・笛の世界」 実施日 平成24年9月29日 参加者数96名 <p>啓発事業イベント参加回数：2回</p>
教育委員会の評価		<p>浜田城啓発イベントとして実施した「発見！浜田城・春の茶会」の参加者は490名であり、昨年度より参加者が100名以上増加し、イベントの周知が進んでいる状況にある。また「発見！浜田城・夜神楽と能・笛の世界」も96名の参加があり、浜田城跡を中心とした浜田の歴史を市民に知ってもらえる良い機会となった。今後とも各種イベントに参加し啓発活動を進めるとともに、啓発イベントを実施し、子どもたちを含む市民に、浜田の歴史、文化にふれる機会を作っていく必要がある。</p>

教育委員会自己点検・評価表

No. 52

点検・評価項目		
はまだっ子	大項目	IV 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造
プランに	中項目	(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積
おける項目	小項目	浜田市誌編纂
事務・事業名		浜田市誌編纂事業
内	容	次期市誌編纂時の効率的な編集・作成に備え、資料の整理収集を図る。新浜田市における市誌となるため、旧市町村時代での歴史資料についても収集整理を行う。
担当課		文化振興課
24年度の目標		<p>全市的な資料収集・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田地域の通史的な歴史を把握するため中世史・近世史年表の作成 ・古文書に関しては主に浜田自治区の中世・浜田藩の近世資料の収集・解読
24年度の実績		<p>浜田地域の中世史・近世史年表の作成 図書館や郷土資料館、旧家所蔵の資料の収集、解読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世史関係 石見地域に関する文書の収集と整理 ・近世史関係 「小川家文書」(匹見町) 「浄琳寺文書」(周布町) 「山根家文書」(長浜町)の解読 周防守家分限帳の作成
教育委員会の評価		<p>専門知識を有するものを嘱託職員として雇用し、着実な資料収集が図られている。</p> <p>市誌編纂には、歴史のみではなく、自然、政治、産業、教育・文化、災害、市民生活、行政等、多岐にわたる分野の調査研究が求められ、今後も引き続き資料収集を行う必要がある。</p>

2. 浜田市教育振興計画「はまだっ子プラン」 の目標達成度について

2. 浜田市教育振興計画「はまだっ子プラン」の目標達成度について

I 生きる力を育む学校教育の充実

(1) 自然に感動する心・ふるさとを愛する心を育てる教育の推進 人と関わる力の育成

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
ふるまい向上に係る内容について、各小中学校の経営方針の一つにあげ、また、学校評価により評価を行う (事業 No. 4)	市内全小 中学校	市内全小 中学校	市内全小 中学校			市内全小 中学校

(2) 確かな学力の定着に向けた取組みの推進 読書の推進

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
読書活動の推進を図る。目標数値は、学校図書館の年間一人当たりの貸出冊数 (事業 No. 11)	小学校 30.3冊 中学校 6.0冊	小学校 49冊 中学校 13冊	小学校 55冊 中学校 14冊			小学校 35冊 中学校 8冊
読書活動の推進を図る。目標数値は、平日の読書時間 30分以上の子の割合 (事業 No. 11)	小6 28.6% 中3 22.1%	小6 24.3% 中3 27.1%	小6 33.9% 中3 26.4%			小6 31.6% 中3 25.1%

(5) 安全で安心な教育環境の整備 学校施設の整備

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学校の耐震化を進める。目標数値は、校舎等のうち、耐震性のある棟数の総棟数に占める割合 (事業 No. 22)	48%	77%	87.5%			100%

II 生涯学習の推進と地域活動を担う人材の育成

(1) 子どもたちを健やかに育むための家庭教育の充実と地域との連携 家庭の果たす役割の再認識

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学校・家庭・地域でふるまい向上推進県民運動を展開する。目標数値は、運動に参加している公民館の数 (事業 No. 24)	8館	11館	7館			16館

P T A活動との連携強化

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
市P T A連合会との懇談会等の開催回数 (事業No. 25)	年2回	年3回	年4回			年4回

地域との連携による子どもの育成

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
放課後子どもプランを推進する。目標数値は、放課後子どもプランに取り組んでいる組織がある学校区数 (事業No. 27)	6校区	6校区	6校区			12校区

(2) 生涯の各期に対応した学習機会の提供

公民館活動の充実

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「地域力」醸成プログラムへの参加を推進する。目標数値は、地域課題の解決に向けた学習・実践活動実施公民館数 (事業No. 29)	11館	20館	20館			20館

人権教育の推進

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
年間事業として人権啓発に関する研修会等を開催した公民館数	15館	17館	21館			26館

(4) 学んだことを活かす地域活動の推進

地域の教育力向上

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地域による学校支援活動(学校支援地域本部事業)を推進する。目標数値は、地域で活動に参加したボランティアの延べ人数 (事業No. 37)	4,000人	7,758人	7,494人			6,000人
各中学校区における学校支援地域本部事業の実施 (事業No. 37)	100%	100%	100%			100%

Ⅲ 生涯を通じて活動できるスポーツの振興

(1) 心身の健康を養うスポーツ・レクリエーション活動の推進

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
各種スポーツ教室の開催回数（ファミリースポーツ教室、軽スポーツの集い、スケート教室など）	6回	10回	7回			10回
海・山など地域資源を生かしたスポーツ大会などの開催回数 (事業 No. 38)	5回	5回	19回			8回

(2) スポーツ精神のかん養と競技力向上の推進

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
J F A 夢の教室の開催回数 (事業 No. 39)	1回	1回	1回			2回
スポーツ選手活用体力向上事業などによるスポーツ教室の開催回数 (事業 No. 39)	2回	2回	0回			3回

(3) スポーツ・レクリエーション環境の整備

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
総合型地域スポーツクラブの数 (事業 No. 42)	1クラブ	2クラブ	3クラブ			10クラブ
校庭の芝生化の校数	1校	1校	2校			6校

Ⅳ 歴史・文化の伝承と地域性豊かな文化の創造

(1) ふるさとの文化を育む基盤づくり

芸術・文化活動の活性化

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
伝統芸能の後継者育成や文化活動等への各種助成制度の活用支援。目標数値は申請件数 (事業 No. 43)	5件	1件	1件			7件
世界こども美術館でミュージアムスクールや創作体験活動の実施。目標数値は延べ参加人数 (事業 No. 45)	12,600人	13,876人	12,571人			13,000人

(2) 文化創造のための環境づくり

芸術の鑑賞機会や発表の場の提供

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
美術館における展覧会等の開催や芸術文化活動の発表の場としての利用促進。目標数値は世界こども美術館及び石正美術館の年間入館者合計数 (事業 No. 46)	75,000人	69,645人	73,015人			80,000人
石央文化ホールでの公演開催や芸術文化活動の発表の場としての利用促進。目標数値は石央文化ホールの年間利用者数 (事業 No. 46)	70,000人	69,685人	74,354人			75,000人

(3) 地域に息づく自然と文化の再発見とその蓄積

埋蔵文化財の分布及び発掘調査

事業及び目標設定の内容	計画時	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
埋蔵文化財把握件数 (事業 No. 48)	730件	766件	767件			760件

(資料) 浜田市教育振興計画
「はまだっ子プラン」(概要版)

数値目標

浜田市教育振興計画 - はまだっ子プラン - 概要版

計画期間 平成23年度～平成27年度

新たな計画策定に当たって

市民みんなが「はまだっ子」
「浜田の子どもたちをどのように育てていくか」
みんな考えていきませんか？

子どもたちを取り巻く環境の変化

(1) 少子化・核家族
化、高齢化の進行

(2) 情報化、
国際化の進展

(3) 人権意識の
高揚

(4) 安全・安心
意識の向上

計画策定の視点

(1) 人は人と関わる中で「役立つ人間」と感じ成長していくこと

(2) 「ふるまい」の向上が必要であること

(3) 教育がめざすのは、個人の特性を伸ばし自立へ導く「個」と
社会形成者の一員として自覚を育む「公共」の両面があること

(4) 「縦」(幼児期→学校教育→生涯学習)のつながりと
「横」(学校・家庭・地域社会)の連携が不可欠であること

(5) 教育には変わらない「不易」と、移り変わる時代に対応する「流行」があること

「ふるまい」とは？
礼儀、作法、あいさつ
しぐさ、モラル、ルール
しつけ、道徳、倫理観
生活行動・動作
思いやり



事業及び目標設定の内容	27年度
<p>I 生きる力を育む学校教育の充実</p> <p>ふるまい向上に係る内容について、各小中学校の経営方針の一つにあげ、また、学校評価により評価を行う。</p> <p>事業及び目標設定の内容</p> <p>20年度 小学校 303冊 中学校 60冊</p> <p>事業活動の推進を図る。目標数値は、学校図書館の年間一人当たりの貸出冊数</p> <p>22年度 小学校6年 31.6% 中学校3年 25.1%</p> <p>読書活動の推進を図る。目標数値は、平日の読書時間30分以上の子の割合</p> <p>事業及び目標設定の内容</p> <p>22年度 4.8%</p> <p>27年度 100%</p> <p>学校の耐震化を進める。目標数値は、校舎等のうち、耐震性のある棟数の総棟数に占める割合</p> <p>事業及び目標設定の内容</p> <p>22年度 8館</p> <p>27年度 16館</p> <p>学校・家庭・地域でふるまい向上推進員運動を展開する。目標数値は、運動に参画している公民館の数</p> <p>市PTA連合会との懇談会の開催回数</p> <p>年2回</p> <p>放課後子どもプランを推進する。目標数値は、放課後子どもプランに取り組んでいる組織がある学校区数</p> <p>6校区</p> <p>12校区</p> <p>「地域力」醸成プログラムへの参加を推進する。目標数値は、地域課題の解決に向けた学習・実践活動実施公民館数</p> <p>11館</p> <p>20館</p> <p>事業及び目標設定の内容</p> <p>21年度 27年度</p> <p>年間事業として人権啓発に関する研修会等を開催した公民館数</p> <p>15館</p> <p>26館</p> <p>地域による学校支援活動(学校支援地域本部事業)を推進する。目標数値は、地域で活動に参加したボランティアの延べ人数</p> <p>4,000人</p> <p>6,000人</p> <p>各中学校区における学校支援地域本部事業の実施</p> <p>100%</p> <p>100%</p> <p>事業及び目標設定の内容</p> <p>22年度 27年度</p> <p>各種スポーツ教室の開催回数(ファミリースポーツ教室、軽スポーツの集い、スケート教室など)</p> <p>6回</p> <p>10回</p> <p>海・山など地域資源を生かしたスポーツ大会などの開催回数</p> <p>5回</p> <p>8回</p> <p>JFA夢の教室の開催回数</p> <p>1回</p> <p>2回</p> <p>スポーツ選手活用体向上事業などによるスポーツ教室の開催回数</p> <p>2回</p> <p>3回</p> <p>総合型地域スポーツクラブの数</p> <p>1クラブ</p> <p>10クラブ</p> <p>校庭の芝生化の校数</p> <p>1校</p> <p>6校</p> <p>事業及び目標設定の内容</p> <p>22年度 27年度</p> <p>伝統芸能の後継者育成や文化活動等への各種助成制度の活用支援。目標数値は申請件数</p> <p>5件</p> <p>7件</p> <p>世界こども美術館でミュージアムスクールや創作体験活動の実施。目標数値は延べ参加人数</p> <p>12,600人</p> <p>13,000人</p> <p>美術館における展覧会等の開催や芸術文化活動の発表の場としての利用促進。目標数値は世界こども美術館及び石正美術館の年間入館者合計数</p> <p>75,000人</p> <p>80,000人</p> <p>石文化ホールでの公演開催や芸術文化活動の発表の場としての利用促進。目標数値は石文化ホールの年間利用者数</p> <p>70,000人</p> <p>75,000人</p> <p>埋蔵文化財把握件数</p> <p>730件</p> <p>760件</p>	<p>市内全小中学校</p> <p>27年度 小学校 35冊 中学校 8冊</p>
<p>II 生涯学習の推進と地域活性化を促す市民の意識</p>	
<p>III 生涯を通じて活躍できるスポーツの振興</p>	
<p>IV 歴史・文化の伝承と地域性を活かす文化の振興</p>	

平成23年3月
浜田市教育委員会

教育振興計画の施策体系

浜田市市民憲章

浜田市総合振興計画

しまね教育ビジョン 21

浜田市教育振興計画

基本理念

基本目標

めざす子ども像

人とつながる喜びや学ぶことの楽しさを通じ、社会の中で自立して生きることができる子どもを育む

- 1 人権尊重の精神をすべての教育の基盤に据え、知・徳・体の調和を取れた、一人一人の特性を活かす教育の推進
- 2 社会を構成する一員として、共に支え合って生きる力が育つ教育の推進
- 3 子どもの発達段階に応じて学校、家庭、地域が運動できる教育の推進

生きがいの
生活リズムを正し、
たくましく生きぬく子

個性が活かされ
人とのつながりを
大切にする子

郷土愛を育み
学ぶ意欲を持ち
ふるさとを愛する子

4本の施策の柱

1

生きる力を育む
学校教育の充実

2

生涯学習の推進と地域
活動を担う人材の育成

3

生涯を通して活動
できるスポーツの振興

4

歴史・文化の伝承と
地域性豊かな文化の創造

行政

融合

家庭

協働

地域



- 小中一貫教育推進事業
- ふるさと教育推進事業
- 生徒国際交流事業
- 学校支援地域本部事業

子ども読書活動推進計画の策定

運動施設の入会・クラブ設置

公民館活動推進事業

ICT教育の推進

学校図書館蔵書管理
システムのネットワーク化

はまだ子ども安全センター
事業の推進及び子ども安全
連絡協議会の連携促進

学校生活支援員配置事業

相談支援体制の充実

特別支援教育推進事業

新設小学校建設事業

最小単位の社会
子どもにとっては
最初の学び(真似)安全・安心の場

基本的な生活習慣
家庭学習・読書
あいさつ 手伝い
家族の絆

ふるまい向上プロジェクトの推進

中央図書館・三階図書館の建設

地域力養成プログラム

島根県浜田市遺跡地図
(三隅・弥栄・旭自治区)作成

集団の中で知・徳・体のバランスのとれた
自立に必要な「生きる力」を培う
個性伸長の教育の場

基礎的学力
学習規律 集団行動
キャリア教育 部活動
小中一貫

食育推進事業

子ども読書活動推進計画の策定

放課後こどもプラン

学校

ICT教育の推進

ふるまい向上プロジェクトの推進

多様な世代・性別の者が
知恵をお互い伝え学びあう
自己の人格を磨き
その成果を還元する場

知恵の伝承
伝統や文化の継承
地域の安全・安心
見守り ふるさと教育

連携

ふるまい向上プロジェクトの推進

放課後こどもプラン

